

2017 年度修士論文

NOU CAMP NOU から見た
米国 MLS スタジアム設計思想の変遷についての研究

Design Philosophy Transition of
Major League Soccer Stadiums
from the Eye of NOU CAMP NOU Architect

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 トップスポーツマネジメントコース

5017A309 - 6

小堀 徹

Toru Kobori

研究指導教員：平田 竹男 教授

目次

第1章	序論	1
第1節	MLSの誕生とスタジアム	1
第2節	ヨーロッパのサッカースタジアム	3
第3節	アメリカのほかのプロスポーツ	4
第2章	先行研究の検討	4
第1節	スタジアムに関する先行研究	4
第3章	研究目的	5
第1節	本研究の目的	5
第2節	本研究の仮説	5
第4章	研究方法	5
第1節	調査対象	5
第1項	対象サンプルの検討	5
第2節	調査方法	6
第1項	文献調査	6
第2項	実地調査	6
第5章	結果	6
第1節	MLSのスタジアム概説	6
第1項	スタジアムの数。	6
第2項	スタジアムの形式	8
第3項	スタジアムの新設時期	8
第2節	実地調査	8
第1項	Toyota Stadium	8
第2項	Century Link Field	9
第3項	Red Bull Arena	11
第4項	Avaya Stadium	12
第3節	スタジアムの分析	13
第1項	サッカー専用スタジアム	13
第2項	兼用スタジアム	25
第3項	Expansion 候補チームのスタジアム	30
第4節	チーム数と観客数	33
第5節	スタジアムの工事費、所有者等	36
第6節	MLSのコンセプト	38
第6章	考察	41
第1節	建築的視点	41
第1項	サッカー専用スタジアムの形状分析と変遷	41
第2項	ほかのスポーツとの兼用スタジアム	46
第2節	MLSビジネスの視点から見たスタジアム	48
第1項	MLSの黎明期	48
第2項	MLSの発展期	48
第3項	MLSの飛躍期の萌芽	49
第3節	MLSスタジアムの世界への影響	51

第7章	結論	56
第1節	本研究の結論	56
第2節	研究の限界.....	56
第8章	謝辞	57
第9章	参考文献.....	58

図表目次

図 1	世界主要リーグ平均観客動員数の推移.....	4
図 2	MLS チームのスタジアムの変遷.....	7
図 3	Toyota Stadium ステージ.....	9
図 4	Toyota Stadium 内観.....	9
図 5	Toyota Stadium 座席表.....	9
図 6	Toyota Stadium 全景.....	9
図 7	Century Link Field スタンド.....	10
図 8	Century Link Field フィールド.....	10
図 9	Century Link Field 全景.....	10
図 10	Century Link Field サイドスタンド.....	10
図 11	Red Bull Arena 外観.....	11
図 12	Red Bull Arena フィールド.....	11
図 13	Red Bull Arena 座席表.....	11
図 14	Red Bull Arena セレモニー.....	11
図 15	Avaya Stadium サイド席.....	12
図 16	Avaya Stadium 芝生.....	12
図 17	Avaya Stadium 外観.....	12
図 18	Avaya Stadium 座席表.....	12
図 19	Providence Park 全景.....	13
図 20	Providence Park 座席表.....	13
図 21	Mapfre Stadium 全景.....	14
図 22	Mapfre Stadium 座席表.....	14
図 23	StubHub Center 外観.....	15
図 24	StubHub Center 座席表.....	15
図 25	Toyota Park 全景.....	16
図 26	Toyota Park 座席表.....	16
図 27	BMO Field 外観.....	17
図 28	BMO Field 座席表.....	17
図 29	Dick's Sporting Goods Park 外観.....	18
図 30	Dick's Sporting Goods Park 座席表.....	18
図 31	Stade Saputo 外観.....	19
図 32	Stade Saputo 座席表.....	19
図 33	Rio Tinto Stadium 外観.....	20
図 34	Rio Tinto Stadium 座席表.....	20
図 35	Talen Energy Stadium 外観.....	21
図 36	Talen Energy Stadium 座席表.....	21
図 37	Children's Mercy Park 外観.....	22
図 38	Children's Mercy Park 座席表.....	22
図 39	BBVA Compass Stadium 外観.....	23
図 40	BBVA Compass Stadium 座席表.....	23
図 41	Orlando City Stadium 外観.....	24

図 42	Orlando City Stadium 座席表	24
図 43	Mercedes-benz stadium 内観.....	26
図 44	BC Place Stadium 内観.....	26
図 45	Gillette Stadium 外観	27
図 46	Audi Field 外観.....	28
図 47	TFC Bank Stadium 全景	29
図 48	Allianz Field 外観.....	29
図 49	Yankee Stadium 外観.....	30
図 50	Yankee Stadium 座席表.....	30
図 51	Banc of California Stadium	31
図 52	Nashville のスタジアム案.....	31
図 53	Cincinnati のスタジアム案	32
図 54	Ford Field 内観.....	32
図 55	Sacramento のスタジアム案.....	32
図 56	MLS 各年の総観客数とチーム数.....	33
図 57	MLS 平均観客数と総観客数.....	34
図 58	名目 GDP の推移	34
図 59	経済成長率の推移	35
図 60	ダウ平均株価の推移.....	35
図 61	MLS スタジアムの工事費.....	36
図 62	MLS チームの Expansion Fees	39
図 63	MLS チームの収入	40
図 64	コの字型・多目的スタジアムとロの字型・伝統的専用スタジアム.....	42
図 65	PNC Park (ピッツバーグ)	43
図 66	Avaya Stadium.....	44
図 67	収容数を変更したスタジアム	45
図 68	街とのつながりを考慮したスタジアム	45
図 69	平均観客数とスタジアムタイプ別のチーム数	47
図 70	スタジアムタイプ別の平均観客数合計	47
図 71	スタジアムタイプによる観客数の変化	49
図 72	MLS 加入時期による観客数の差異	50
図 73	モーゼス・マヒダ・スタジアム	51
図 74	アレーナ・フォンチ・ノヴァ	51
図 75	シンガポール・ナショナル・スタジアム.....	52
図 76	仁川サッカースタジアム	52
図 77	キャンプノウ内観.....	53
図 78	キャンプノウ外観.....	53
図 79	MLS スタジアムとリーグビジネスの発展.....	55
表 1	ワールドカップの観客数	2
表 2	1994 年アメリカワールドカップの会場.....	2
表 3	2017 年 MLS シーズンに使用された本拠地スタジアム	7

表 4	MLS スタジアムの所有者、運営者	37
表 5	The Houston Dynamo Stadium の資金計画	37
表 6	2000 年～2010 年に完成した MLB スタジアム	44
表 7	MLS サッカー専用スタジアムの構成	46
表 8	MLS のスタジアム設計思想と NOU CAMP NOU の設計思想の相似	54

第1章 序論

第1節 MLSの誕生とスタジアム

ピッチの周囲をスタンドが取り囲むヨーロッパのスタジアムと比較すると、アメリカのサッカースタジアムは異なる独自のスタイルがあり、実に多彩である。

Toyota Stadium（テキサス州フリスコ市）はコンサートステージ用屋根を常設し、Avaya Stadium（カリフォルニア州サンノゼ市）は屋外バーや芝生広場が設置されるなどユニークな例が多い。また、Red Bull Arena（ニュージャージー州ハリソン市）は欧州的なオーバル型スタジアムであり、Century Link Field（ワシントン州シアトル市）はNFLとの兼用、Yankee Stadium（NY市）はMLBとの兼用スタジアムである。

この多様さはサッカーの本場といわれる欧州ではとても考えられない。アメリカならではの状況があると考えるべきで、それぞれのスタジアムにはそれぞれの設計思想があるに違いない。

筆者は現在バルセロナ・カンプノウの設計に関わっているが、カンプノウの設計にあたって、前例のないスタジアムを目指した。特に重視したことは街や人とのつながりで、スタジアムを単なるスポーツ施設ではなく、市民の空間、パブリックスペースと見なして「開放」することを大切にしたいと考え、それを具体的に形として提案できたことがコンペを勝ち抜けた原因だと自負している。このほかにも、臨場感を生むためのピッチとの距離感や音、振動などの効果によって「熱狂」の場になることを重視した。さらに、今回のカンプノウ設計は、既存スタジアムの改修であり、どこをどのように「改修・増築」するかは大いに議論をした点である。

1994年にアメリカ合衆国（以下アメリカ）で開催されたサッカーワールドカップは、52試合で約359万人の観客を動員した。これは2014年のブラジル大会の64試合、約343万人を上回る。1試合平均で見るとアメリカ大会は68,991人となり、ブラジル大会の53,592人を大きく凌駕する。¹（表1）1994年当時のアメリカには本格的なサッカー専用スタジアムはほとんどなく、大会はNFLなどのアメリカンフットボールスタジアムが使用された²（表2）が、大きな収容力を持つNFLスタジアムを使用したことが大会記録として残る総観客数の一因である。

このワールドカップが契機となって1996年にアメリカ合衆国でも10チームによるプロサッカーリーグ、メジャーリーグサッカー（以下MLS）が創設されたが、当時のプロチームはすべて1994年のW杯同様、NFLや大学のアメリカンフットボール会場を本拠地としてスタートした。ローズボウルなどW杯で使用されたスタジアムのうち4か所もMLSの本拠地として使用されたが、MLSはリーグとしてサッカー専用スタジアムの保有を推奨し、新スタジアムでのオールスター戦の誘致なども含めた戦略を展開したことにより、1999年に完成したMapfre Stadium（コロンバス）をはじめとして建設が進み、2017年現在では参加22チーム（アメリカ19チーム、カナダ3チーム）のうち15チームがサッカー専用スタジアムを持つに至っている。³

表 1 ワールドカップの観客数¹

開催年	開催国	参加国数	試合数	1 試合平均観客数
2014	Brazil	32	64	52,918
2010	South Africa	32	64	49,669
2006	Germany	32	64	52,491
2002	Korea/Japan	32	64	42,268
1998	France	32	64	43,517
1994	USA	24	52	68,991
1990	Italy	24	52	48,388
1986	Mexico	24	52	46,039
1982	Spain	24	52	40,571
1978	Argentina	16	38	40,678
1974	Germany	16	38	49,098
1970	Mexico	16	32	50,124
1966	England	16	32	48,847
1962	Chile	16	32	27,911
1958	Sweden	16	35	23,423
1954	Switzerland	16	26	29,561
1950	Brazil	13	22	47,511
1938	France	15	18	20,872
1934	Italy	16	17	21,352
1930	Uruguay	13	18	32,808

表 2 1994 年アメリカワールドカップの会場²

競技場	都市	収容人数
フォックスボロ・スタジアム	マサチューセッツ州フォックスボロ	61,000 人
ジャイアンツ・スタジアム	ニュージャージー州イーストラザフォード	77,000 人
ロバート・F・ケネディ・メモリアル・スタジアム	ワシントン D.C.	56,500 人
ポンティアック・シルバードーム	ミシガン州ポンティアック	80,000 人
ソルジャー・フィールド	イリノイ州シカゴ	67,000 人
シトラス・ボウル	フロリダ州オーランド	70,000 人
コットン・ボウル	テキサス州ダラス	67,000 人
ローズボウル	カリフォルニア州パサデナ	91,000 人
スタンフォード・スタジアム	カリフォルニア州スタンフォード	80,000 人

第2節 ヨーロッパのサッカースタジアム

サッカーは中世に起源を持つ球技で、1863年にイングランドに協会が設立されるとともに近代化が進み、さらに1904年には国際サッカー協会（FIFA）が設立されて国際化が進行した。1930年にはFIFAが主催するワールドカップの第一回大会がウルグアイで開催され13か国が参加した。

スタジアム全般の歴史については後藤健生氏の著作⁴に詳しいが、その起源を探ると古代オリンピックにたどり着く。1896年に開催された第1回近代オリンピックでは、その古代競技場が改修されて使用されたが、ローマ帝国崩壊後に再びスタジアム建築が始まるのは19世紀初頭になる。また1908年のオリンピック・ロンドン大会では大規模なスタジアムが建設された。サッカーの宗主国でありスポーツが盛んであったイングランドにおいては、19世紀のうちにクリケットの専用スタジアムが整備され、サッカーも大きな大会はそれらのクリケット施設を借用して行われていたが、サッカーが盛んになるとともにサッカー専用スタジアムも作られていった。1892年に開場したグディソンパークは英国で初めてのサッカー専用スタジアムといわれている。1966年にイングランドで開催されたワールドカップでは、7都市8会場が使用されたが、すべてがサッカー専用スタジアムであった。

1982年のスペインワールドカップでは14都市17会場が使用されたが、ここでもほとんどがサッカー専用スタジアムであった。これに対してドイツやイタリアでは公営の陸上トラックが併設されたスタジアムが一般的で、1974年の西ドイツワールドカップで使用された9会場のうち、サッカー専用スタジアムはその大会用に新設されたドルトムントのスタジアムだけで、決勝が行われたミュンヘンのオリンピック競技場も陸上トラック付きのスタジアムであった。1990年のイタリアのワールドカップにおいて新設されたスタジアムの多くも陸上トラック併設スタジアムであるが、近年のイタリアサッカーの凋落の原因の一つとして古くからの施設が老朽化していることに加え、ピッチまでの距離のあるスタジアムが多く使われていることがあげられている。最近ではユベントスのスタジアムが改修によってサッカー専用としてリニューアルされ成功を収めていて、そのほかの都市でも新設が計画されているがまだほとんど実現していないのが実情である。

これに対し、ドイツは2006年のワールドカップを目指してサッカー専用スタジアムの整備が進んだ点に特徴がある。1974年にはわずか1会場だったサッカー専用スタジアムが2006年には12会場で9会場まで増え、バイエルンミュンヘンの本拠地であるアリアンツ・アリーナや、観客席が増設されたドルトムントのスタジアムなど8万人を超す収容力を持つスタジアムが完成した。それによってドイツのプロリーグであるブンデスリーガの一試合当たりの平均観客数は大幅に増加し、イングランドを抜いていまや世界で一番集客力のあるサッカーリーグとなり、毎試合の平均で4万人を超す観客を集めることとなった。さらに2006年以降も中堅クラスのクラブのスタジアム整備が進み、その結果観客数はさらに増加することとなった。

図1に世界の主要リーグの一試合あたりの平均観客動員数の推移を示す。⁵ 2000年以降ドイツが順調にその数を伸ばしているのに対し、イタリアが徐々に数を減らしているのが見て取れる。

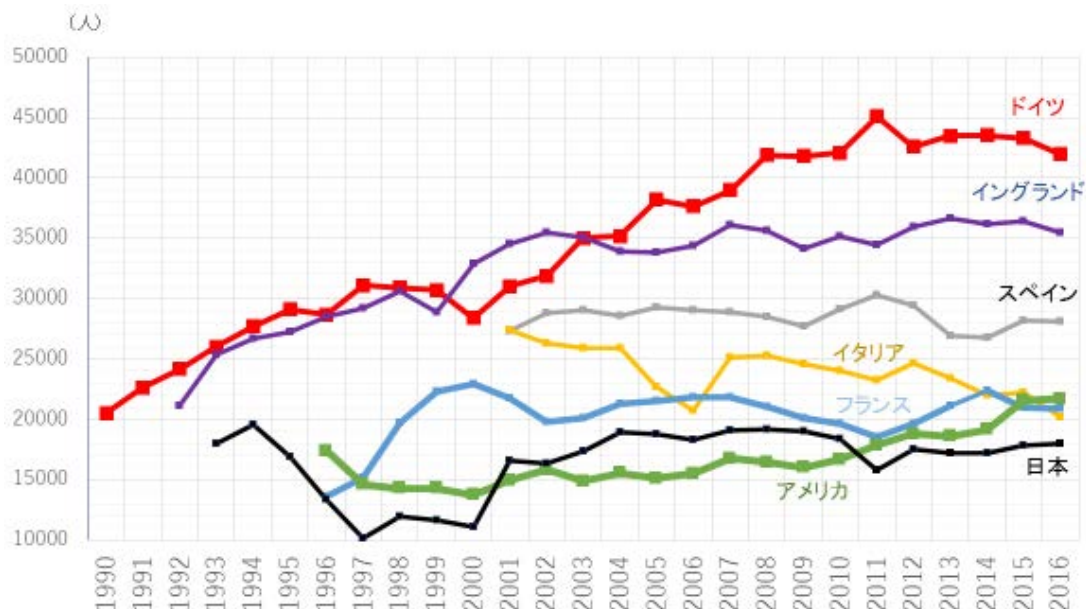


図 1 世界主要リーグ平均観客動員数の推移⁵

図 1 で注目すべきはアメリカで、1996 年の MLS 設立以降、観客数はしばらく低迷したが、2010 年前後から徐々に増加傾向にあり、2015 年以降は 1 試合平均で 20,000 人を越え、日本の J リーグだけでな、イタリア、フランスの平均観客数をも上回るに至っている。

第 3 節 アメリカのほかのプロスポーツ

アメリカは、スポーツビジネスの世界で多くの実績を持つことは改めて言うまでもない。アメリカンフットボール (NFL)、野球 (MLB)、バスケットボール (NBA)、アイスホッケー (NHL) は 4 大プロスポーツと言われ長い歴史を誇るが、MLS もビジネス形態やスタジアムにおいても少なからずその影響を受けていると思われる。NFL は 1990 年代に 7 つ、2000 年～2010 年に 12 のスタジアムを新設していて、MLB も同様に 1990 年代に 8 つ、2000 年～2010 年に 13 のスタジアムを新設している。MLS がサッカー専用スタジアムを整備していく 2000 年～2010 年に特に両リーグあわせて 25 のスタジアムを新設していることはとても興味深く、MLS に対する影響を考慮する必要がある。

第 2 章 先行研究の検討

第 1 節 スタジアムに関する先行研究

サッカーにおけるスタジアムの位置づけについては、形態構成、ホームアドバンテージ、集客力、観戦環境、観戦者の行動などについて一般論として述べた先行研究はみられるが、国別の背景や特徴について論じたものは少ない。

金森は「ペイルは、民衆娯楽としてのフットボール、サッカーの形成、サッカーの商品化：囲い込まれたサッカーという 3 段階の変化を指摘している」とし、「サッカースタジアムは、サッカーそれ自体よりも、社会的、政治的、経済的な需要から発生した経済主義、機能主義、

効率主義といった思想に影響を受けながら、その道をたどってきたことが明らかにされた」⁶としている。

飯田は「スタジアムの近代化は、イングランドを悩ませたフーリガンが引き起こしたスタジアム事故を契機として、その後マードックの衛星放送の介入、サッカー協会とサッカー・リーグの主導権争いなど様々な要因が複雑に絡み合って FAPL が成立し、」その後、クラブ経営からスタジアムを利用した資金調達の方法論を 1990 年以前、1994～1999、1999～2004 年の三期にわけて論じた。⁷

西崎はクラブと地域コミュニティ・サポーターを結びつけるスタジアムの「経営資源」としての価値と「地域共有資産」としての役割について論じている。⁸

橋本は近年の国内外のスタジアム/アリーナが、どのような社会的・歴史的状況の下、どのような社会的要因の影響を経て検討・新設されるのかを比較検討している。⁹

また MLS については、大山が MLS のチケット販売戦略とシングルエンティティ構造について¹⁰、宮崎が MLS のリーグ構造とスポーツビジネスについて論じているが¹¹、MLS に関してスタジアムとビジネスの関係を論じたものや、その設計思想について述べたものはほとんどない。

第3章 研究目的

第1節 本研究の目的

カンパノウの中心的設計思想である「開放」、「熱狂」、「改修・増築」の観点から、MLS スタジアム設計思想の変遷を明らかにすることを目的とする。

第2節 本研究の仮説

MLS では、1999 年に完成した Mapfre Stadium に始まり、2017 年のシーズンから使用されている Orlando City Stadium まで 15 のサッカー専用スタジアムが存在する。またリーグ設立当初からアメリカンフットボールなどほかのスポーツのスタジアムも兼用されているが、次第にサッカーとの兼用を前提として設計されるスタジアムも生まれている。こうした MLS スタジアムには設計思想がありそこに変遷を読み取ることができる。またリーグビジネスとも関係があり、NOU CAMP NOU の設計コンセプトとも共通点がある。

第4章 研究方法

第1節 調査対象

第1項 対象サンプルの検討

- ・ 2017 年現在の 22 チーム中、15 チームが使用しているサッカー専用スタジアム
- ・ 7 チームが使用している、ほかのスポーツと兼用されているスタジアム
(そのうち 2 チームが 2017 年時点で建設中の専用スタジアムも含む)
- ・ Expansion の候補となっているチームが提案しているスタジアム
- ・ 過去に MLS から撤退したスタジアムに関しては、観客数等の統計上の対象とする。
- ・ 現在のチームが専用スタジアム建設前に使用していたフットボールスタジアムについては、その事実を確認するにとどめる。

第2節 調査方法

第1項 文献調査

文献調査 1996 年から 2017 年までに MLS に所属したチームのスタジアムと Expansion 候補チームのスタジアムを調査対象とし、MLS ビジネスも含めて文献調査を行う。

各スタジアムについて、そのスタジアムを使用する MLS チームのホームページ、スタジアム自体のホームページ、さらに各スタジアムの Wikipedia（英文）などの文献を調査する。また MLS のホームページや日常的なスタジアムに関するメディアからの情報も調査対象とした。

第2項 実地調査

文献調査をもとに、スタンドや屋根の形状に特徴がある以下の 4 スタジアムを選び出し、ゲーム観戦も含め実地調査を行う。また、MLB スタジアムも実地調査に加えた。

Avaya Stadium (San Jose)	2017 年 8 月 19 日
CenturyLink Field (Seattle)	2017 年 8 月 20 日
Toyota Stadium (Dallas)	2017 年 8 月 25 日
Red Bull Arena (New York)	2017 年 8 月 26 日
PNC Park (Pittsburgh)	2017 年 8 月 22 日 : MLB
AT&T Park(San Francisco)	2017 年 8 月 23 日 : MLB

第5章 結果

第1節 MLS のスタジアム概説

第1項 スタジアムの数。

表 3 に 2017 年シーズンに各チームの本拠地として使用されたスタジアムの一覧を示す。緑で示したものがサッカー専用スタジアム、薄いオレンジで示したものが他のスポーツとの兼用スタジアムである。¹²

また図 2 は、これまでに離脱したチームも含めた MLS すべてのチームの使用したスタジアムの変遷を簡略に示したものである。緑がサッカー専用スタジアム、薄いオレンジが MLS 使用の前にすでに存在していたほかのスポーツとの兼用スタジアム、濃いオレンジはサッカーとの兼用を前提に設計あるいは使用開始された兼用スタジアムを示す。

2017 年シーズンは 22 チームが参加したが、過去に離脱したチームが 3 つあり、2018 年以降に Expansion で参入が決まっているか最終候補に残っている 5 チームを加えた計 30 チームのスタジアムを対象とする。2017 年の 22 チーム中、リーグ設立当初から参入しているのは 9 チーム（うち 1 つは本拠地変更した。すなわちサンノゼが 2005 年にチームごとヒューストンに移ったが、サンノゼには 2008 年に別のチームが誕生した。）、途中参入が 13 チームである。

また、2018 年からはロサンゼルス 2 つめのチームの参入が決まっている。マイアミも加入がようやく正式に発表されたが、参入時期などの詳細は確定していない。（ちなみにこのチームには孫正義氏の投資家グループへの参画が公表されている）

一方で、2020 年以降の参入チームの選択が 2017 年 12 月に最終段階を迎えていて、ナッシュビルの参入（2020 年加入といわれている）はすでに決まったが、もう 1 チームの決定は 2018 年に持ち越されている。

表 3 2017 年 MLS シーズンに使用された本拠地スタジアム¹²

都市	スタジアム	使用開始	収容力	ピッチ
Atlanta	Mercedes-benz Areana	2017	40,000	115x75
Minnesota	TCF BANK Stadium	2017	50,805	120x70
Orlando	Orlando City Stadium	2017	25,500	120x75
San Jose	Avaya Stadium	2015	18,000	115x74
New York	Yankee Stadium	2015	28,940	110x70
Montreal	Stade Saputo	2012	20,801	120x75
Houston	BBVA Compass Stadium	2012	22,309	115x75
Bancouber	BC Place	2011	22,120	117x75
Kansas City	Children`s Mercy Park	2011	18,467	120x75
Portland	Providence Park	2011	22,000	110x74
Chester	Talen Energy Stadium	2010	18,500	120x73
Harrison	Red Bull Arena	2010	25,000	120x73
Seattle	CenturyLink Field	2009	68,000	116x74
SaltLake City	Rio Tinto Stadium	2008	21,030	120x75
Tronto	BMO Field	2007	28,500	115x74
Commerce City	Dick`s Sporting Goods Park	2007	18,061	120x75
Bridgeview	Toyota Park	2006	20,000	120x75
Frisco	Toyota Stadium	2005	16,000	120x75
Carson	StubHub Center	2003	27,167	120x75
Foxborough	Gillette Stadium	2002	20,000	120x75
Columbus	Mapfre Stadium	1999	19,968	115x75
Washington DC	RFK Stadium	1996	19,647	110x75

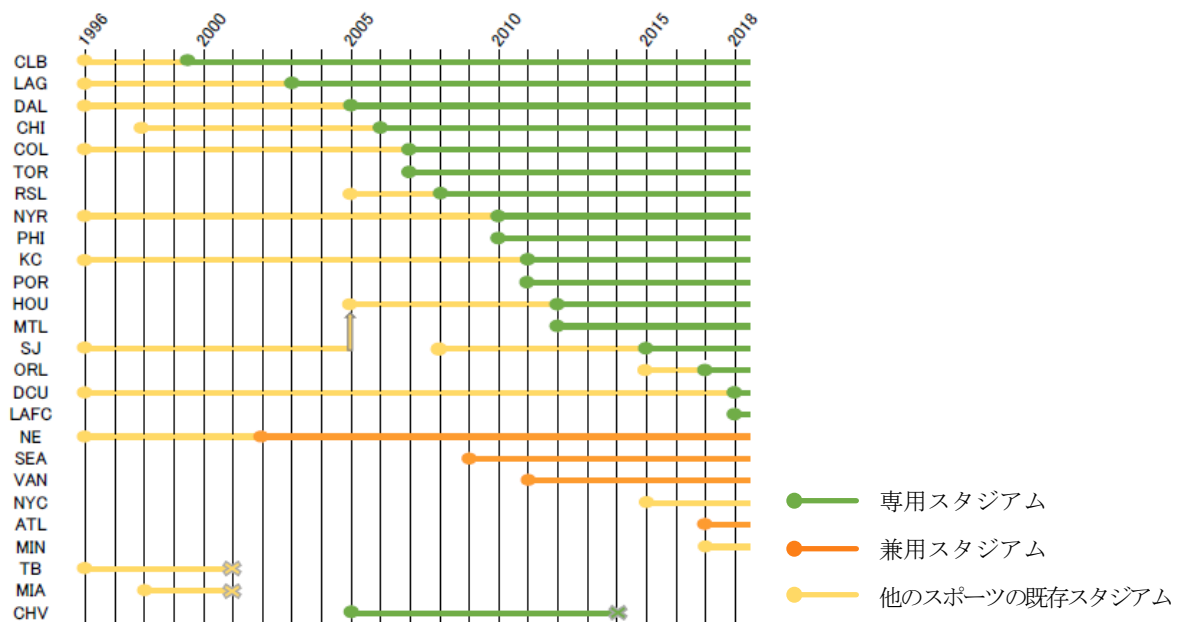


図 2 MLS チームのスタジアムの変遷

第2項 スタジアムの形式

2017年の22チームのうち15チームが専用スタジアムを使い、6チームがNFLスタジアム、1チームがMLBスタジアムを兼用している。専用スタジアムを持つチームのうち11チームはリーグ加入時にフットボール用スタジアムを使用し、のちに専用スタジアムを新設した。これに対し、ほかの3つはチーム加入時から新設増設専用を使用し、またポートランドは加入に合わせて古くからあった多目的競技場をサッカー専用に改修した。

6つのNFL（CFL）スタジアム兼用のうち4つはMLSが兼用することを考慮して設計されたものである。残る2つは既に別のサッカー専用スタジアム工事が進んでいるため、アメリカンフットボール用に設計された古くからのスタジアムがMLSから姿を消す日も近い。多くの観客収容力を持つ兼用スタジアムの場合は、サッカーで使用する際に満員の観客を呼ぶことができないことが多いため、サッカーゲーム時に一部の観客席にシートをかぶせ、収容数を低く抑えている。最大収容能力に比べて少ない観客を分散させず、グラウンド近くの席に密集させることでゲームの興奮を演出する手法でもある。

MLB兼用のスタジアムであるNew York City FCの本拠地Yankee Stadiumはその名でもわかるようにMLBのYankeesのホームグラウンドを兼用していて、専用建設を模索中だが用地が定まっていない。

第3項 スタジアムの新設時期

1996年リーグ設立時の10チームはフットボール用スタジアムの使用が容認されたが、リーグがサッカー専用スタジアムの建設を推奨した結果、1999年にコロンバスが初めての専用スタジアムを完成させ、2007年にはトロントがExpansionチームとしては初めて専用スタジアムとともに参入した。その間に専用は5つ、MLS兼用を前提としたNFLスタジアムが1つ完成している。

その後2008年から2017年までに9の専用スタジアム（うち3つは加入時から使用）が完成し、3つのNFL兼用スタジアムの使用がスタートしている。

第2節 実地調査

第1項 Toyota Stadium

テキサス州フリスコ市：FC Dallas 本拠地

2005年完成：工事費80M\$

20,500人（席は18,000）収容：サッカー殿堂建設で変更予定

Owner:Frisco City

Operator:Frisco Soccer,LP

MLS加入当初は1994年W杯で使用されたダラス市内のCotton Bowlを使用していたが、MLS3番目のサッカー専用スタジアムとしてダラス近郊のフリスコにこのスタジアムが作られた。専用スタジアムとしてサッカーを中心に設計が行われているとはいえ、収益性向上のための多目的利用を目指し、片側のサイドスタンドにコンサートステージ用の屋根を常設し、その下は大きな平土間に仮設席を設けることで様々な使用方法への対応が図られている。翌年に完成したシカゴのToyota Parkも同様にステージ屋根が設けられ、またMLSの最初の専用スタジアムとして1999年に竣工したMapfre Stadium（コロンバス）では、2008年にそれまでの収容人数22,555人を20,455人に減らして改

修工事を行いステージを設けるという対応が施されるなど、MLS 初期においてはスタジアムの多目的利用を目指したサイドスタンドの利用が一つの典型として定着した。

ピッチ面は周辺の地表盤面から掘り下げられていて、客席は地表面からピッチへ向かう斜面にスロープ状に設けられている。メインスタンドの後方には 560 m²の年間チケット者用のスタジアムクラブが用意され、2階には Luxury suites18 室が設けられている。客席上部に屋根はなく、コーナー部だけに簡単な膜屋根が設けられている。スタジアム周囲には 17 面のサッカーグラウンドが併設されていて、様々なトーナメントなどが行われているほか、2018 年冬の完成を目指してステージ屋根と反対のサイド側にサッカー殿堂の建設工事が進行中である。¹³



図 3 Toyota Stadium ステージ



図 4 Toyota Stadium 内観



図 5 Toyota Stadium 座席表¹⁴



図 6 Toyota Stadium 全景¹⁵

第2項 Century Link Field

ワシントン州シアトル市：Seattle Sounders 本拠地

2002 年完成：工事費 430M \$（公的資金 300M \$、Seahawks 130M \$）

69,000 人収容：サッカーの際には 39,419 人

Owner: Washington State Public Stadium Authority

Operator: First&Goal Inc.

MLS はサッカー専用スタジアムの保有をチームに推奨しているが、ほかのプロスポーツとオーナーが一緒であればスタジアムを共有することが認められていて、6 チームが NFL または CFL と、1 チームが MLB とスタジアムを共有している。このスタジアムは NFL の Seahawks の本拠地で、2009 年からは Sounders も兼用しているが、マイクロソフトのポール・アレン氏が両チームの共通のオーナーである。

ピッチの大きさや芝の問題などデメリットもある一方で、NFL や MLB スタジアムの収容力は大きな魅力である。設計は当初から NFL と MLS の兼用が考慮されていて、座席からの視線は FIFA の規定を満足し、サッカーチーム専用のロッカールームも整備されている。ピッチには人工芝が採用されているが、2016 年からは Field Turf Revolution 360 が使用されている。片側のサイドスタンドは幅を抑えたうえ、スコアボードも縦長にすることでその両側に空間を設け、スタンド越しにシアトルの街を望むことができるよう配慮された設計となっている。

2009 年に MLS に加入した Sounders は、それ以来 2016 年まで MLS の平均観客数で一位を独占している。当初のビジネスモデルではサッカーの観客は 12,000 人と予想されていたが、最初のシーズン開幕前にすでにシーズンチケットが 22,000 席売れていた。一年目の前半は収容数を 27,700 人と想定していたが、多くの観客を集めたため後半には 32,400 人、2010 年には 35,700 人、2011 年には 38,500 人へと変更された。2017 年シーズンの平均観客数は 43,666 人である。

今では常時 4 万を超える観客を集めているが、それでも満員ではないので、売れない席はシートをかけ、グラウンド近くの席に観客を集めて熱狂を確保するという戦略が取られていて、さらにチケットの売れ行きによりシートで覆う範囲を変えている。

いずれにせよ、最大でも平均収容数 3 万人以下でしかない他チームのサッカー専用スタジアムに比べ圧倒的な集客力を誇る状況にある。2017 年に MLS に加入した Atlanta United FC は当初から NFL スタジアムを使用していたが、夏に新スタジアムが完成し、その話題性もあってか 9 月のゲームではアメリカのサッカーとしては異例の 7 万人を超える観客を集めた。

こうした影響もあって、MLS のサッカー専用スタジアムを持つというリーグコンセプトに対するコミッショナーの発言が微妙に変化している。¹⁶

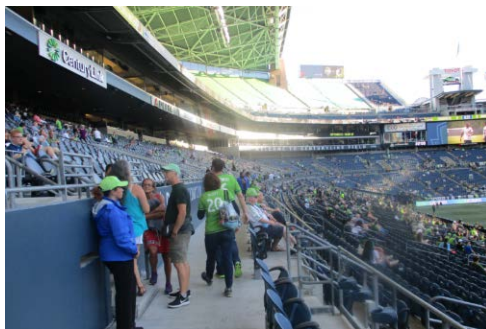


図 7 Century Link Field スタンド



図 8 Century Link Field フィールド



図 9 Century Link Field 全景¹⁷



図 10 Century Link Field サイドスタンド

第3項 Red Bull Arena

(ニュージャージー州ハリソン市：New York Red Bulls 本拠地)

2010 年完成：工事費 200M\$

25,000 人収容

30 の貴賓席と 1000 席のプレミアム席

Owner & Operator :Red Bull GmbH

チームは MLS 設立の 1996 年から MLS に加入していて、当初は NFL の Giants Stadium を使用していた。ニューヨークをチーム名としているが、このスタジアムはニューヨークから西へ一時間のニュージャージーに位置する。当初は AEG がチームを所有していたが、ヨーロッパの飲料会社であるレッドブルがスタジアムの権利ごと買収しスタジアム計画にも自らの要望を加えた結果、欧州型の観戦重視のスタジアムとなった。閉鎖型でほぼ均等に観客席が一周ピッチを囲み、2 段構成のスタンドを膜構造で覆い、音響にも配慮した設計となっている。下段は全体に鉄筋コンクリート造であるのに対し、上段席は鉄骨造となっていて、観客のステップが全体に伝わり興奮が伝搬するように配慮されている。ヨーロッパに匹敵するスタジアムを目指して設計され、オーストリアの Hypo Arena in Klagenfurt に外観が極めて近似しているが、こうした観戦重視のスタジアムがアメリカに生まれた背景にはアメリカ人のサッカー観戦の嗜好の変化があげられる。¹⁸



図 11 Red Bull Arena 外観¹⁹



図 12 Red Bull Arena フィールド



図 13 Red Bull Arena 座席表²⁰



図 14 Red Bull Arena セレモニー

第4項 Avaya Stadium

(カリフォルニア州サンノゼ市：San Jose Earthquakes 本拠地)

2015 年完成：工事費 100M \$

18,000 人収容

Owner: San Jose Earthquakes

Operator: Earthquake Soccer LLC

サンノゼには 1974～1982 年の NASL、1985～1988 年の WSL にもサンノゼ・クラッシュとしてプロチームが存在し、MLS には 1996 年の開幕時から籍を置いていた。しかし 2005 年を最後にスタッフ・選手は専用スタジアムの可能性を求めてヒューストンに移籍したためチームは解散した。今のチームはそれとは別のチームで 2008 年に MLS に再加入し、当初はサンタクララ大学のスタジアムを使用していた。

このスタジアムは、キャノピー屋根と急勾配のスタンドによって見やすさを確保し、北側には大きなスタンドを設けず、バーとして利用している。両面にスクリーンを持つ映像装置の裏側も大きなオープンスペースとして残して芝生を植え、試合前に食事をしたり遊んだりしてにぎわうスペースを用意している。3 面のスタンドの一階はすべてピッチレベルのスイツ席となっていて、気軽にパーティができるスペースとなっている。このスタイルが可能な一つの理由は、国土の広いアメリカのサッカーではアウェイのファンが応援に来るというスタイルがほとんどないことがあげられる。建設に公的資金は使わず、チームのオーナーが負担するとともに、55 年のメンテナンス費用も負担している。収容数は 18,000 人だが、2015 年現在で 12,000 人の年間パス保有者がいる。ちなみに 2012 年から Los Angeles Galaxy とのゲームを収容数の多いスタンフォード大のスタジアムで開催して 50,000 人以上のファンを集め、その結果チームの平均観客数がこのスタジアムの収容数を越えるという現象になっている。²¹



図 15 Avaya Stadium サイド席

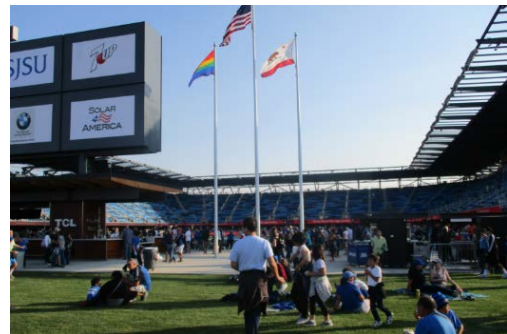


図 16 Avaya Stadium 芝生



図 17 Avaya Stadium 外観²²



図 18 Avaya Stadium 座席表²³

第3節 スタジアムの分析

第1項 サッカー専用スタジアム

以下にMLSサッカー専用スタジアムのうち前項で述べたもの以外の12のスタジアムに関してそれぞれの特徴を記述する。

(1) Providence Park (オレゴン州ポートランド市:Portland Timbers 本拠地)

1926年完成：工事費約50万\$

Owner：City of Portland

Operator:Peregrine Sports,LLC

1926年に開場した古いスタジアムで、野球などにも使用されていたものを2011年のTimbers MLS参加を機にサッカー専用に変更したため、ほかのスタジアムとは観客席などの形状が大きく異なる点に特徴がある。初期はMultnomah Athletic Clubが所有、1966年に市が買収した。度々改修を重ねているが、Timbersが2011年にMLS加入するまではサッカーだけでなく野球などの各種スポーツや政治集会、コンサートや地域イベントにも使用されていた。2001年に38.5M\$をかけて席やコンコースなどを改修、2009年には31M\$をかけてサッカー用に改修、ピッチを西、北へ移動し、東と南側には新しい席や附属施設を設けた。さらに2012年には5000席を増設して20,438人の収容が可能となった。2017年には東側スタンドの4000席増設が発表されている。ちなみにチームは1970年代のNASLに同名のチームがあり、2000年代にはUSLに所属していたが、MLSの拡張により2011年からMLSに加入した。

正面スタンドから左サイドスタンドにかけて屋根を持った大きなスタンドが続き、バックスタンドは中通路前だけに座席があつて、屋根も別個に部分的に掛けられている。²⁴



図 19 Providence Park 全景²⁵



図 20 Providence Park 座席表²⁶

(2) Mapfre Stadium (オハイオ州コロンバス市:Columbus Crew 本拠地) 7)

1999 年完成 : 28.5M\$ (現在の物価では 41M\$)

19,968 人収容 (22,555 人、20,455 人と変化)

Owner&Operator : Precourt Sports Ventures LLC

チームは 1996 年の MLS 創設時のメンバーであり、当時の 10 チーム中で初めて建設されたサッカー専用スタジアムである。加入後の 3 シーズンは州立大内のオハイオスタジアムを使用していたが、90,000 人のスタジアムを 25,243 人として使用するなど大きすぎる収容力や、フィールドサイズ、照明なしなどの問題があった。建設資金は Crew のオーナーと石油王 L.Hunt 氏などのファンドによって賄われた。

このスタジアムは当初は 22,555 席あったが、市の Germain Amphitheater が閉館したのちの 2008 年に北エンドゾーンにステージを増設するために座席数を減らして 20,455 席となり、現在では 19,968 席となっている。

メイン・バックの両スタンドは 2 段構成だが屋根はなく、片側のサイドスタンドには中央にステージ用の土間と屋根が設けられ、その両脇に一段の座席があってメイン・バックスタンドと連続している。もう一方のサイドスタンドは前列にピッチレベルのパーティールームがあってテント屋根がかかっており、その上に小さな一段のスタンドが設けられている。²⁷

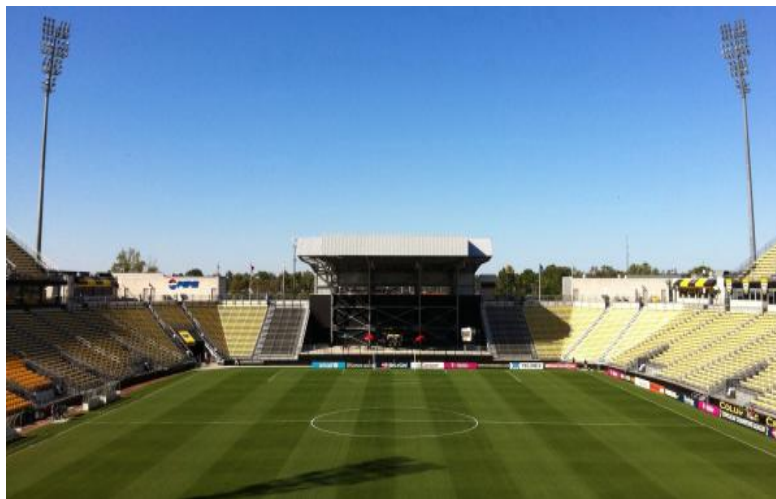


図 21 Mapfre Stadium 全景²⁸



図 22 Mapfre Stadium 座席表²⁹

(3) StubHub Center

(カリフォルニア州カーソン市:Los Angeles Galaxy 本拠地)

2003 年完成：工事費 150M \$

27,000 人収容

Owner&Operator:AEG

カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校キャンパス内にある複合スポーツ施設の一角にあり、27,000 席は BMO Field について MLS では 2 番目に大きなサッカー専用スタジアムである。2017、2018 年シーズンは NFL のチャージャーズも本拠地として暫定使用しているため、それに先立ち東サイドに 2 段目のデッキ席が増設されたほか、ロッカーやカメラなどの工事が行われた。暫定とはいえ先に MLS が使用しているスタジアムを NFL が兼用するという初めての例である。

1996 年から MLS に参加している Galaxy は、当初ローズボウルを使用していたこのスタジアム完成とともに本拠地を移したが、当時存在した Chivas もここを本拠地としていた。

メインスタンドは一段の観客席の上に 2 層の VIP 室が積まれていてその上に屋根がかかり、バックスタンドは 2 段構成でメイン側と同様な形状の屋根を持つ。屋根はいずれも片側のサイドスタンドに少しだけ回り込んでいる。両サイドスタンドは一段構成だが、この一段目の席はメイン・サイドも含めて連続している。片側のサイドスタンドは一段のスタンドの上に VIP 室が設けられ、もう一方のスタンドは一段のスタンドの上に Grass Berm と呼ばれる芝生が植えられたスペースがある。³⁰



図 23 StubHub Center 外観³¹



図 24 StubHub Center 座席表³²

(4) Toyota Park (イリノイ州ブリッジビュー:Chicago Fire 本拠地)

2006 年完成 : 98M \$ (1998 年 MLS 加入)

20,000 人収容

Owner&Operator: Village of Bridgeview

Toyota Stadium 同様、片側サイド側にステージ屋根が常設されているほか、屋根で覆われた座席や座席とピッチの近さを売り物にしている、Executive suites 42 室、6 つのパーティールーム、840 m² の Club 室、イリノイサッカー殿堂などが併設されている。また天然芝、人工芝の 2 つのフィールドが隣接されている。

メインスタンドは一段構成でその上に VIP 室などがあり、バックスタンドは 2 段構成となっていて、この 2 か所には屋根が設けられている。また片側のサイドスタンドはステージ用のスペースと屋根があり、もう一方のサイドはメイン、バックスタンドの一段目と連続したスタンドとなっている。³³

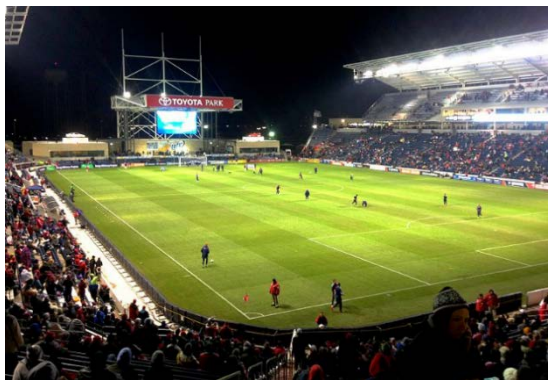


図 25 Toyota Park 全景³⁴



図 26 Toyota Park 座席表³⁵

(5) BMO Field (カナダ・オンタリオ州トロント市: Toronto FC)

2007 年完成 : 工事費 62.5M カナダドル (改修費 120M カナダドル)

28,500 人収容 (改修で 8,400 席増設)

Owner : Toronto City

Operator: MapleLeaf Sports & Entertainment (MLSE)

Toronto FC はカナダ初の MLS チームとして 2007 年に加入したが、当初からこのスタジアムを本拠地として使用している。

スタジアム名の BMO はモントリオール銀行である。運営者の MLSE は NHL チームのオーナーでもあり、工事費の一部、800 万カナダドルを負担している。カナディアンフットボールも行われているため、当初は人工芝が敷設されていたが、MLSE の要望もあり 2010 年から天然芝となっている。またスタンドは当初はメイン側のみ 2 段構成、バックと右サイド側は 1 段構成であり、さらに片側サイドは多目的用のテラスとなっていて、座席は仮設となっていた。2014 年～16 年の改修でバック側スタンドにも 2 段目の 8,400 席が増設され、さらにメイン・バックスタンドに大きな屋根が、サイド側一面にも大屋根より少し下のレベルに屋根が設けられた。120M カナダドルを使った改修工事の結果、MLS 最大のサッカー専用スタジアムとなった。³⁶

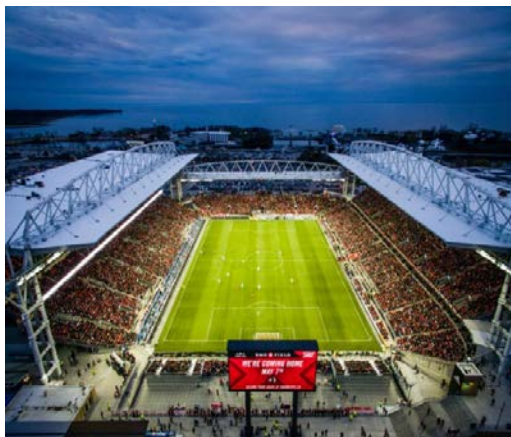


図 27 BMO Field 外観³⁷

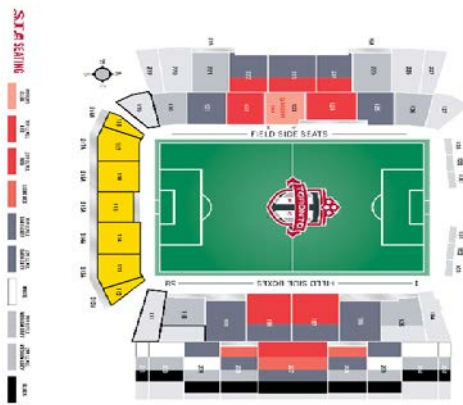


図 28 BMO Field 座席表³⁸

(6) Dick's Sporting Goods Park

(コロラド州コマース市:Colorado Rapids 本拠地)

2007 年 : 工事費 131M \$

18,601 人収容

Owner:City of Commerce City

Operator:Kroenks Sports Enterprise (KSE)

Rapids は MLS 創設メンバーで、2000 年までインベスコ・フィールド・オブ・マイルハイを、2001 年から 2006 年まではインベスコ・フィールドを使用していた。

KSE はほかのプロスポーツのオーナーでもあり、アーセナルの共同オーナーでもある。建設費は KSE と市が均等負担している。

18061 人を収容するがコンサート時には 26,000 人を集めることができ、多くのコンサート実績がある。

メイン、バックさらに右サイド側に一段構成のスタンドが連続してあり、メインスタンドの後方には 2 階建ての VIP 室などがある。メインとバックスタンドそれぞれに 9 枚の段状に配された屋根があつてスタジアムの特徴となっているが、スタンド全体を覆っているわけではない。左サイド側はテラスとなっていて、仮設席が設けられている。³⁹



図 29 Dick's Sporting Goods Park 外観⁴⁰



図 30 Dick's Sporting Goods Park 座席表⁴¹

(7) Stade Saputo

(カナダ・ケベック州モントリオール市：Montreal Impact 本拠地)

2008 年完成 2012 年増設：工事費 17M カナダドル 増設費用 23M カナダドル
20,801 人収容（2008 年当時は 13,404 人）

Owner: Saputo

Operator: Montreal Impact

当初の建設費の半分はサプト家が負担し、残りは個人からの寄付によっている。増設費用は 23M カナダドル。

スタンドはバックと両サイド側が一段構成で連続していて、メイン側とは別構造になっている。いずれにも最後部には VIP 室が設けられていて、屋根もスタンドと同様にメイン側、バック+両サイドと 2 つに分かれているが、スタンドすべてを覆っているわけではなく、約 7,000 席が屋根の下となっている。⁴²



図 31 Stade Saputo 外観⁴³



図 32 Stade Saputo 座席表⁴⁴

(8) Rio Tinto Stadium (ユタ州ソルトレイク市:Real Salt Lake 本拠地)

2008 年完成 : 工事費 115M \$

20,213 人収容

Owner&Operator:SCP Worldwide

チームは 2005 年に MLS に加入したが、ファンドの構成が難航し、スタジアムの建設は大きく遅れた。2008 年も完成が 10 月にずれ込んだので、大半のホームゲームはユタ大学の Rice Eccles Stadium で行われた。

一段のスタンドが 4 周を連続して取り囲み、メイン側はその後方に 2 層の VIP 席があり、バックは 2 段目のスタンドが設けられている。屋根はメインとバックの一部に存在している。右サイドスタンドには一部にサポーター席が設けられている。⁴⁵



図 33 Rio Tinto Stadium 外観⁴⁶



図 34 Rio Tinto Stadium 座席表⁴⁷

(9) Talen Energy Stadium

(ペンシルベニア州フィラデルフィア市：Philadelphia Union 本拠地)

2010 年完成：工事費 120M \$

18,500 人収容（コンサート時 26,000 人）

Owner: Delaware County

Operator: Keystone Sports and Entertainment LCC

工事費のうち 30M \$ を Delaware County が、47M \$ を Commonwealth of Pennsylvania が負担していて、近くを流れるデラウェア川のコモドルバリー橋周辺の開発の起爆剤と位置付けられている。2011 年には 30,000 人収容までの 3 段階の増築計画が発表されている。当初の設計はヨーロッパ型のオーバル型完全カバーの案だったが、クラブサポーターとの意見交換を経て、サポーターのために入り口などを変更したほか、屋根を 2 つにしてコンサートステージを設けられるようにし、60% の席から街のシンボルである橋が見えるように変更が加えられた。

4 周を取り巻く一段構成のスタンドの後方にはメイン・バックスタンドに 2 層の VIP 室、左サイド側にも VIP 室が設けられたが、屋根はメイン・バックのみである。⁴⁸



図 35 Talen Energy Stadium 外観⁴⁹



図 36 Talen Energy Stadium 座席表⁵⁰

(10) Children's Mercy Park

(ミズーリ州カンザスシティ市：Sporting Kansas City 本拠地)

2011 年完成：200M \$

18,467 人収容（音楽では 25,000 人）

Owner: Kansas Unifield Development LLC

Operator: Sporting Kansas City

1996 年からメンバーであるスポルディング・カンサスシティの本拠地で、2008 年から使用されていたコミュニティアメリカ・ボールパークに代わるものとして 2011 年完成した。チームにとっては 3 つめのホームスタジアムとなる。収容人数はサッカーで 18,467 人だが、サッカーでもモードを変えることで 21,000 人の観戦が可能とされている。

スタンドは 4 周を取り巻き、メインとバックスタンドの後方には VIP 席が設けられている。また、両方のサイド席の後方には立見もできるスペースがブリッジ状に配置されている。屋根はメインスタンド端部から徐々にレベルを下げながら 4 周を巡り、特徴のある外観を示している。⁵¹



図 37 Children's Mercy Park 外観⁵²



図 38 Children's Mercy Park 座席表⁵³

(11) BBVA Compass Stadium

(テキサス州ヒューストン：Houston Dynamo 本拠地)

2012 年完成：工事費 95M \$

22,039 人収容：(34 のスツルルームと 1100 のクラブ席)

Owner: Harris County~Houston Sports Authority

Operator: AEG

ヒューストン・ダイナモの本拠地であるが、このチーム名は 1984 年までの USI あるいは 1987~1991 年の LSSA に存在したダイナモスに由来している。今のチームは 2006 年にサッカー専用スタジアムを求めてサンノゼにあったチームのスタッフ、選手が移籍してできたものである。ヨーロッパのサッカー専用スタジアムの雰囲気を MLS にもたらそうとして作られたスタジアムで、2012 年に完成した。ネーミングライツを持つ BBVA はスペインリーグやメキシコリーグのスポンサーも努めるスペインの銀行で、10 年 20M \$ の契約。外観は工業地帯であった現在の敷地の heritage を反映したオレンジ色とポリカーボネートを採用している。

スタンドは一段構成で 4 周を取り囲み、サイドスタンド中間部にはテラス席が設けられている。屋根はメイン・バックスタンドの 2 つのみで、左サイド側にはステージ用の屋根が設置されている。⁵⁴



図 39 BBVA Compass Stadium 外観⁵⁵



図 40 BBVA Compass Stadium 座席表⁵⁶

(12) Orlando City Stadium

(フロリダ州オーランド市：Orlando City SC 本拠地)

2017 年完成：工事費 155M \$

25,500 人収容

Owner&Operator: Orlando City SC

チームは 2015 年に加入し、2 年間は Citrus Bowl を使用していたが 2017 年シーズンからこのスタジアムを使用している。当初 3 面にスタンドを持つ 19,000 席のスタジアムとして計画されていたが、2 年間の集客力を見て設計途中で予定になかった南側にもスタンドを設けた 25,500 席に変更された。スタンドは全体に 2 段構成だが、北側はサポーター用に大きな一段のスタンドとなっている屋根は 4 面それぞれに独立した屋根がほぼすべての客席を覆っている。

工事費は 15M \$ が私的なファンにより集められ、さらにブラジル、中国など 30 の海外投資家が参画している。⁵⁷



図 41 Orlando City Stadium 外観⁵⁸

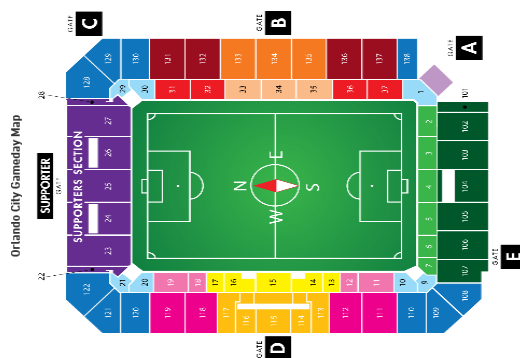


図 42 Orlando City Stadium 座席表⁵⁹

第2項 兼用スタジアム

2017年シーズン MLS22 チームのうち 15 チームがサッカー専用スタジアムを使用している。MLS への加入には専用スタジアムの保有が推奨されているが、例外としてほかのプロスポーツとオーナーが一緒であればサッカー専用以外のスタジアムを兼用することが認められている。その結果、MLB のスタジアムを兼用している 1 チームを除くと、6 チームが NFL あるいは CFL と兼用のスタジアムを使用している。そのうちワシントン D.C. は 2018 年シーズンからサッカー専用スタジアムに移ることが発表されているし、ミネソタ・ユナイテッド F.C. も新スタジアムの建設に着手していて 2019 年からの使用が予定されている。すなわち今後もプロフットボールスタジアムを積極的に使用していくのは 4 チームとなっている。そのうちシアトルは 2009 年の加入以来 30,000~40,000 人を超す平均観客数を記録していて、さらに 2017 年加入のアトランタはいきなり平均で 48,200 人の観客を集めた。

NFL スタジアムを兼用することの難点は、スタジアムの観客席数が MLS の集客力に比べて大きすぎ満員の熱狂を得にくいこと、フットボールのフィールド幅がサッカーに比べて狭いため十分なピッチサイズが取りにくいこと、フットボールの場合はライン際に選手、コーチなどが並ぶので観客席のレベルが高くなりがちなことに加え、人工芝の問題がある。ただし人工芝に関しては技術革新が進み、FIFA 基準を満たしているものが既に存在している。ほかの問題も設計当初から兼用を前提に進めていくことでクリア可能な問題だと考えられる。

2009 年から圧倒的な収容力を誇っていたシアトルに加え、2017 年にはアトランタがその数字を上回ったことで、MLS コミッショナーもサッカー専用スタジアム規定について再考をにをおせる発言をしている。2017 年に新規参入したミネソタのチームについては、サッカー専用スタジアムの建設が決定条件の一つになっているが、2020 年の Expansion 候補のひとつであるデトロイトはフォード家が投資家グループに加わったことで、NFL スタジアムの兼用を提唱しており、その成り行きが注目される。

(1) Mercedes-benz Stadium

(ジョージア州アトランタ市 : Atlanta United FC 本拠地)

2017 年完成 : 工事費 1600M \$

71,000 人収容 : サッカー時は 42,500 人

Owner: Georgia World Congress Center Authority

Operator: AMB Sports and Entertainment Group

NFL Falcons と兼用しているスタジアムで、8 つの三角形パネルが移動する特徴ある可動屋根を持つが、その部分の工事が遅れ、当初の 2017 年 3 月の完成予定は 3 回延長されて実際には 8 月末の完成となった。2017 年から MLS に加入した Atlanta United FC は予定していた 2 試合を延期、1 試合はシーズン当初に使用していた Bobby Dodd Stadium に会場を変更し、9 月以降になってやっと Mercedes-benz Stadium を使用できることとなった。収容力は 71,000 人でサッカー使用時は 42,500 人と規定されているが、MLS の 2017 シーズンには 2 回にわたって 70,000 人を越える観客を集め、平均でも 48,200 人と MLS で一番の観客数となった。⁶⁰

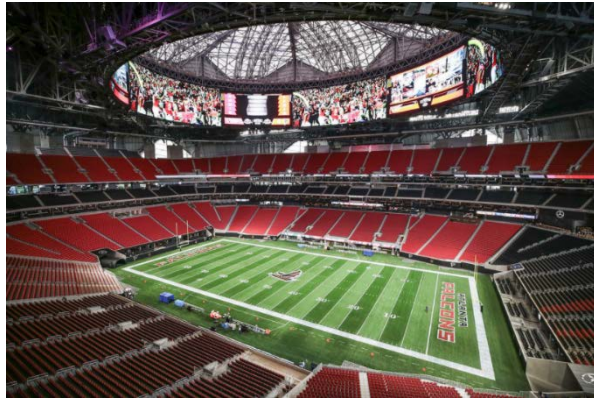


図 43 Mercedes-benz stadium 内観⁶¹

(2) BC Place Stadium (カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー市
: Vancouver Whitecaps 本拠地)

1983 年完成、2011 年改修：工事費 126M カナダドル (1983 年当時)

54,500 人収容 (サッカー時 22,120 人)

Owner: Province of British Columbia

Operator: BC Pavilion Corporation

もともとは 1983 年に空気膜構造として完成したスタジアムで、東京ドームを設計の際にモデルとされたスタジアムである。当時の工事費は 1 億 2600 万カナダドルであったが 2011 年に全面的に改修されてケーブル式の開閉スタジアムとなった。カナディアンフットボールの BC Lions と MLS Whitecaps が兼用している。MLS 時は 22,120 人の収容数で運用されていて、上部席を屋根から吊った膜で覆うという方式を採用している。2017 年シーズンは 21,416 人。FIFA が 2 つ星で推奨している Polytan という人工芝を採用している。⁶²



図 44 BC Place Stadium 内観⁶³

(3) Gillette Stadium (マサチューセッツ州フォックスボロ市：
New England Revolution 本拠地)

2002 年完成：工事費 325M \$ (1996 年加入)

65,878 人収容 (サッカー時 20,000 人)

Owner&Operator: The Kraft Group

ジレットスタジアムは、NFL の New England Patriots と MLS の Revolution が兼用している。どちらのチームもオーナーはロバート・クラフト氏である。ニューイングランドはボストン近郊の町だが、ボストンのプロスポーツはこのほか、Red Sox の Fenway Park、Delaware North の TD Garden とすべて施設が民営であり、このスタジアムも例外ではない。サッカー時の収容数は 20,000 人とされているが、2017 年は平均 19,367 人を記録した。このスタジアム完成前はどちらのチームも Foxboro Stadium が使用されていた。会場当初は天然芝が使用されていたが、2006 年からは人工芝が用いられている。11 月に暴風雨で芝が被害を受けたのを機に、Field Turf が採用され、2010 年に FIFA の 2 スターランクにマッチした Field Turf Duraspine Pro に変更、さらに、2014 年には同 Revolution を採用し、排水設備も完備した。サッカー専用スタジアムに関しては 2006～07 年に 50,000 人規模のスタジアム建設が議論されたが成立しなかった。ちなみに Patriots は 1994 年の前のスタジアム時代から常にチケットが売り切れていることで有名である。⁶⁴

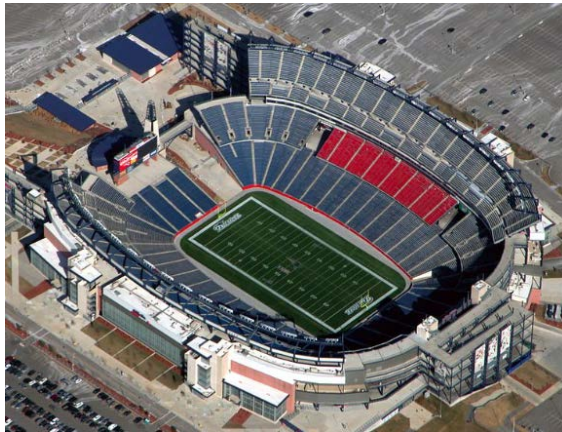


図 45 Gillette Stadium 外観⁶⁵

(4) RFK Stadium と Audi Field (ワシントン D.C.:D.C.United 本拠地)

1961 年完成

55,672 人収容 (サッカー時 20,000 人 : 31 の Luxury Suite)

Owner: District of Columbia

Operator: D.C. United

ワシントン D.C. に本拠地を置く D.C. United は MLS 開幕当初からリーグのメンバーでありながら、土地の問題などでサッカー専用スタジアム問題を解決できずにいたが、ようやく 2018 年に自前のスタジアムを持つこととなった。それまでは NFL などが使用していた RFK スタジアムを始め複数のスタジアムを使用してきた。ちなみに 1961 年完成の RFK スタジアムはほかのプロスポーツ本拠地としてはもはや使用されておらず、D.C. United の 2017 年の観客数も 55,672 人の収容力に対し、17,904 人に過ぎなかった。クラブは 2004 年にコミッショナーからサッカー専用スタジアム保有の指摘を受けて以来、Poplar Point を候補地として検討が進められたが資金や市の了解などの問題でとん挫し、さらに次のいくつかの候補地も同様の問題で実行に至らなかった。2012 年にクラブのオーナーが代わると今回の敷地である Buzzard Point での

建設が具体化しようやく完成の運びとなった。⁶⁶

2018 年からの使用が予定されている Audi Arena はメインスタンドがピッチレベルを含んだ 3 段構成の観客席をもち、さらに 2 段目と 3 段目の間には VIP 室が配置されている。バックと両サイドは一段構成のスタンドだが、右側のサイドスタンドの半分は Luxury Suites を含め建物になっていて、メインスタンドとの間には大きなエントランスが設けられている。また左側のスタンド後方には商業施設が設けられている点にも特徴がある。工事は進捗が遅れていて、チーム HP によると 2018 年シーズンの 7 月から使用開始となる見込みである。ちなみに 2017 年 10 月の RFK スタジアム最後のゲームには 41,418 人の観客が集まった。⁶⁷



図 46 Audi Field 外観⁶⁸

(5) TFC Bank Stadium (ミネソタ : Minnesota United FC 本拠地)

2009 年完成 : 工事費 303M \$

50,805 人収容

Owner&Operator: University of Minnesota

2017 年に MLS に加入した Minnesota United FC は、新しいサッカー専用スタジアム (Allianz Field) の建設を提案しているが、まだ完成しておらず、2017 年はミネソタ大学のスタジアムである TFC Bank Stadium を使用した。チームのオーナーは Bill McGuire だが、2015 年の決定前には NFL バイキングスのオーナーグループと Expansion の権利を争った。NFL スタジアムとの兼用を提案した対抗馬に対し、McGuire はサッカー専用スタジアムを提唱し、それが勝利の一因といわれているが、まだそのスタジアムは完成を見ていない。2017 年の平均観客数はスタジアムの収容数 50,805 人に対し 20,538 人となっている。新スタジアムは 19,400 人収容のサッカー専用スタジアムで私的な資金 (200M\$) により 2019 年春の完成を目指している。⁶⁹



図 47 TFC Bank Stadium 全景⁷⁰



図 48 Allianz Field 外観⁷¹

(6) Yankee Stadium

(ニューヨーク州ニューヨーク市 : New York City FC 本拠地)

2009 年完成 : 1500M \$

47,422 人収容 (サッカー時 28,743 人)

Owner: New York City

Operator: New York Yankees

ヤンキースタジアムは野球兼サッカースタジアムで、MLB の yankees と MLS の New York City FC が兼用している。New York City FC のオーナーは、イングランドのサッカーチームである Manchester City と MLB の Yankees である。野球とサッカーではフィールド形状が基本的に異なり、野球場をメインに設計されているこのスタジアムでは、サッカーピッチとしてはやや小さなスペースしか確保できていない。ピッチサイズは 110ydsX70yds で、これは FIFA の国際試合基準の最低値である。ちなみにシアトルのスタジアムは 116ydsX75yds が確保されていて、MLS でも 120ydsX75yds が確保されている例が多い。野球の収容数 47,422 人に対しサッカーは 28,743 人で、2017 年の平均観客数は 22,643 人である。あまりに形状の違うスタジアムでのサッカー開催には無理があるため、チームは新しいサッカー専用スタジアムを模索しているが、ニューヨークに敷地を確保できていない。ちなみに 2017 年シーズン終盤には MLB ヤンキースの試合スケジュールの関係で、このサッカーチームは 2 試合の会場変更を余儀なくされた。このようにスケジュールがリーグの自由にならないところが、MLS がサッカー専用スタジアムを要求する最大のポイントである。⁷²

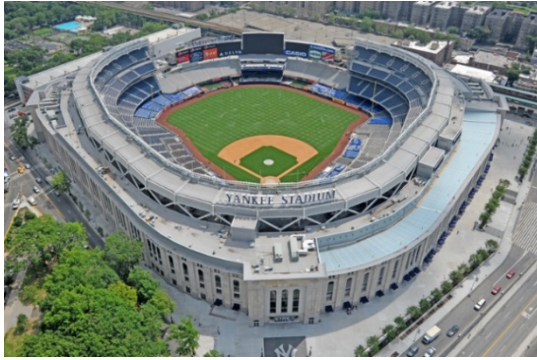


図 49 Yankee Stadium 外観 ⁷³

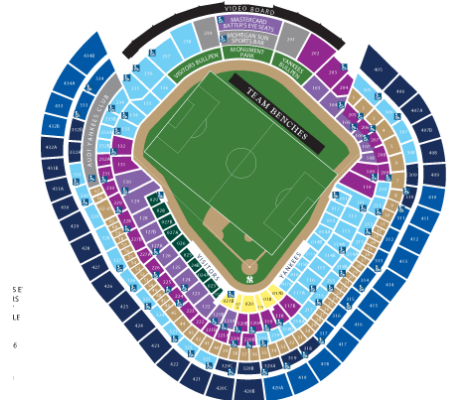


図 50 Yankee Stadium 座席表 ⁷⁴

第3項 Expansion 候補チームのスタジアム

2017 年に 22 チームで成り立っている MLS は 2018 年にロサンゼルスの新チーム、Los Angeles FC の参加が決まっている。ベッカムがオーナーの一人といわれているマイアミのチームも権利を有しているが、スタジアムのめどが立たずようやく 2018 年 1 月に正式に加入が発表された。リーグ参戦時期はまだ明らかにされていない。一方リーグは 2022 年までに 28 チームをめどにチーム数を増やすことを明言していて、そこに名乗りを上げる 12 都市が 2017 年 1 月に発表された。

選定のポイントは、①オーナーの経済力、②スタジアム、③都市のサイズと市場規模、④ファン層の充実などがあげられていて、候補チームは資金計画や運営方針だけでなく、自然とスタジアム計画にも力を入れることとなる。

2017 年 12 月の段階で、Cincinnati、Detroit、Nashville、Sacramento の 4 都市が選ばれ、12 月 6 日に NY でプレゼンテーションが行われた。その結果を受けてまず Nashville が選定された。さらに 2017 年内にもう 1 チームが選定されるといわれていたが、選考が遅れている。Nashville の加入は 2020 年といわれているが明言はされていない。今回選択されなかった 2 チームは残りの 8 チームとともに改めて次の 2 チームを目指すというプロセスが明らかにされている。ちなみに上記の 4 都市以外は、Charlotte、Indianapolis、Phoenix、Raleigh/Durham、St.Louis、San Antonio、San Diego、Tampa/St.Petersburg である。

2018 年に加入が決まっている Los Angeles の新スタジアムと、候補に残っている 4 チームのスタジアムは以下の通りだが、一席当たりの建設費も高く、4 面を屋根で囲われたスタジアムが主流となっている。その一方で単にピッチを取り囲むだけでなく、スタンドの一部を開けて街とのつながりを狙ったスタジアムが多く提唱されるなど、専用スタジアムのそれぞれ明確なテーマを持っている点が特徴となっている。また NFL の集客力にも注目が集まっていて、デトロイトは兼用スタジアムの利用を提唱している。

(1) Banc of California Stadium

(カリフォルニア州ロサンゼルス : Los Angeles FC 本拠地)

2018 年シーズンに MLS 加入が予定されている Los Angeles FC の本拠地として建設が進められているが、シーズン開幕には間に合わないといわれている。収容数は 22,000 人、工事費は 250M \$ が予定されている。スタンドは MLS の中でも最も急こ

う配の 34 度、最もピッチに近い席は 12 フィートで、一番遠い席でも 135 フィートに収まることが特徴と言われている。スタンドは 4 面を取り囲み、屋根もスタンド上部全体を覆うが、正面スタンド両側にスリットがあつて、ロスの中心部の超高層ビル群を眺めることができるよう配慮されている。⁷⁵



図 51 Banc of California Stadium⁷⁶

(2) Nashville

現在の日本大使である Bill Hagerty 氏などを中心に MLS 誘致運動あつたが、Nashville SC は 2018 年シーズンから USL でプレーすることが決まり、別の投資家グループがこのチームを買収、Expansion に臨んでいる。このチーム、ナッシュビルサッカーホールディングスは、J.R.Ingram 氏をリーダーにミネソタバイキングスのオーナーなどから構成されている。27,500 人収容スタジアムを 275M\$ で建設する計画である。ちなみに USL は NASL (80 年代の NASL とは別のもの) とともに MLS の下部リーグと位置付けられているが、昇格降格によるチームの入れ替えはない。2017 年シーズンは、MLS のセカンドチームも含め 30 チームが東西に分かれてリーグを戦った。FC Cincinnati のように、ここを母体に MLS 参入を目指すケースもみられる。Nashville SC の場合も 2018 年からはこのリーグで研鑽を積み、数年後の Expansion による MLS 参入を目指すものと思われる。⁷⁷



図 52 Nashville のスタジアム案⁷⁸

(3) Cincinnati

Futbol Club Cincinnati は、2015 年に設立され、2016 年から USL に加入し、Nippert Stadium を本拠地としている。このスタジアムは 100 年の歴史を持つ大学のスタジアムで 30,000 人を超す収容力があるが、2016 年には平均 17,296 人、レギュラーシーズン一試合最大で 24,376 人、プレーオフでは 30,187 人を集め、2017 年シーズンは 21,199 人と伸ばした。また 2017 年の US オープンでは MLS のシカゴ FC を破るなど、観客

数だけでなく実力も MLS 並みであることを示している。21,000 人収容の新しいサッカー専用スタジアムがすでに提案されている。⁷⁹



図 53 Cincinnati のスタジアム案⁸⁰

(4) Detroit

23,000 人規模のサッカー専用スタジアム計画が立候補当初より存在していたが、最近 Ford 家が投資家グループに参画することが発表され、保有する NFL スタジアムである Ford Field の兼用が話題に挙がっている。アトランタの 2017 年の成功を受け、同年 9 月には MLS コミッショナーが専用スタジアムルールを再考するという発言をしたという事情が背景にある。Ford Field の収容力は 65,000 人で完成は 2002 年、どの程度 MLS の兼用を前提とした設計にはなっているかどうかは確かでない。⁸¹



図 54 Ford Field 内観⁸²

(5) Sacramento

Sacramento Republic FC は 2014 年から USL に参加していて、一年目から優勝しただけでなく、観客動員数を更新し、2017 年は平均で 11,569 人の観客を集めた。チームはほぼ 20,000 人収容のスタジアムを民間資金で建設することを検討していて、閉鎖的で観客の声がうまく反射するようなヨーロッパ的なスタジアムを 2020 年のシーズンに間に合うよう計画していると表明している。⁸³



図 55 Sacramento のスタジアム案⁸⁴

第4節 チーム数と観客数

1996年に10チームで設立されたMLSは紆余曲折を経て2017年現在22チームで構成されている。当初の10チームのうち1チームはが離脱し、1チームは継続されているが本拠地が変更になっている（2005年にサンノゼからヒューストンへ。現在のサンノゼは2008年に別に設立されたチーム）。チーム数はITバブル崩壊や同時多発テロの影響を受けた2000年代前半までは最大で12チーム、10年間ほどは10～12を推移していたが、2007年以降は6年連続で新規参入チームを迎え、2015年には20チーム、2017年は22チームに達した。前章でも述べたように、さらに加入チームを募っていて、2022年には28チームとなることが発表されている。

リーグ設立当初から残っているチームに、1998年から参加したシカゴを加えた9チームを一つのグループとして考えると、そのうち78%に当たる7チームは順次サッカー専用スタジアムを建設している。ワシントンも2018年から専用スタジアムを使用するので、当初のチームで兼用スタジアムを使用しているのはニューイングランドのみとなる。

一方、その他の新規参入というべき13チームは専用スタジアムの保有が加入条件となっているので、8チームが専用スタジアムを持ち、5チームはオーナーが共通のプロチームのスタジアムを兼用している。そのうちミネソタは専用スタジアムの建設に着手しているが、MLBスタジアムを使用しているNewYorkCity FCはスタジアム用地の選定が進んでいない。

一方、一試合平均観客数は開幕年の約17,500人からすぐに下降し、しばらくはその値を越えることができなかったが、いわゆるベッカムルール（特別指定選手制度）を導入した2007年にいったん上昇し、さらに2010年からは増加の一途を辿っている。2016年にはついに20,000人を越え、2017年シーズンは22,000人を越えた。総観客数は、チーム数も一試合平均観客数も上昇を始めた2010年代から急速に伸び、1996年設立時は年間300万人に届かなかった数字が、2011年には500万、2015年には700万を越し、2017年には設立時の約3倍となる800万人を大きく超えた。

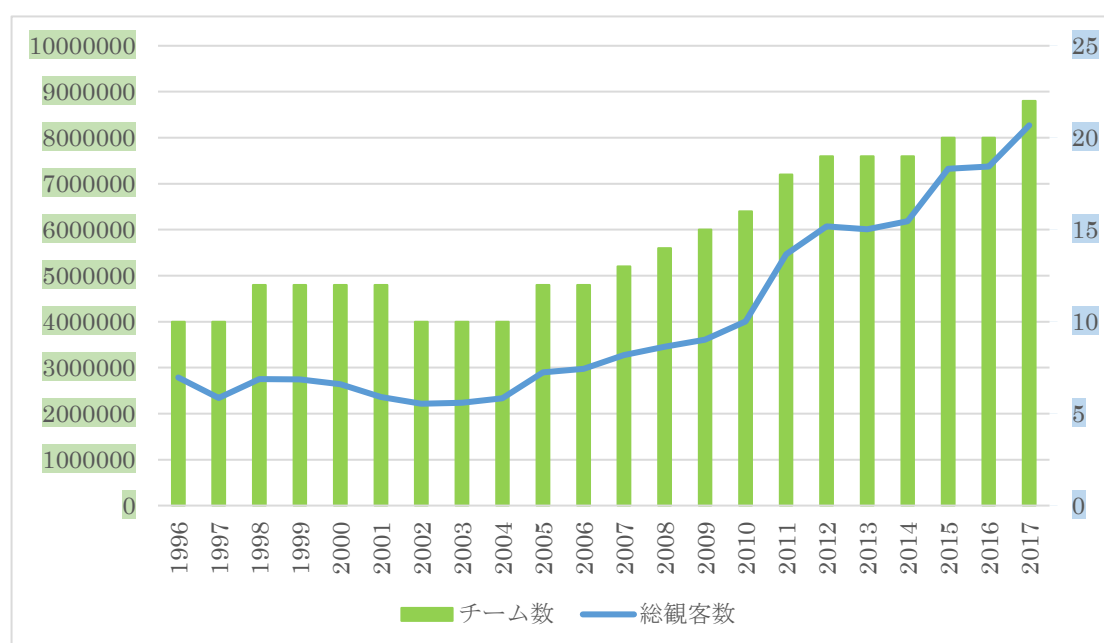


図 56 MLS 各年の総観客数とチーム数

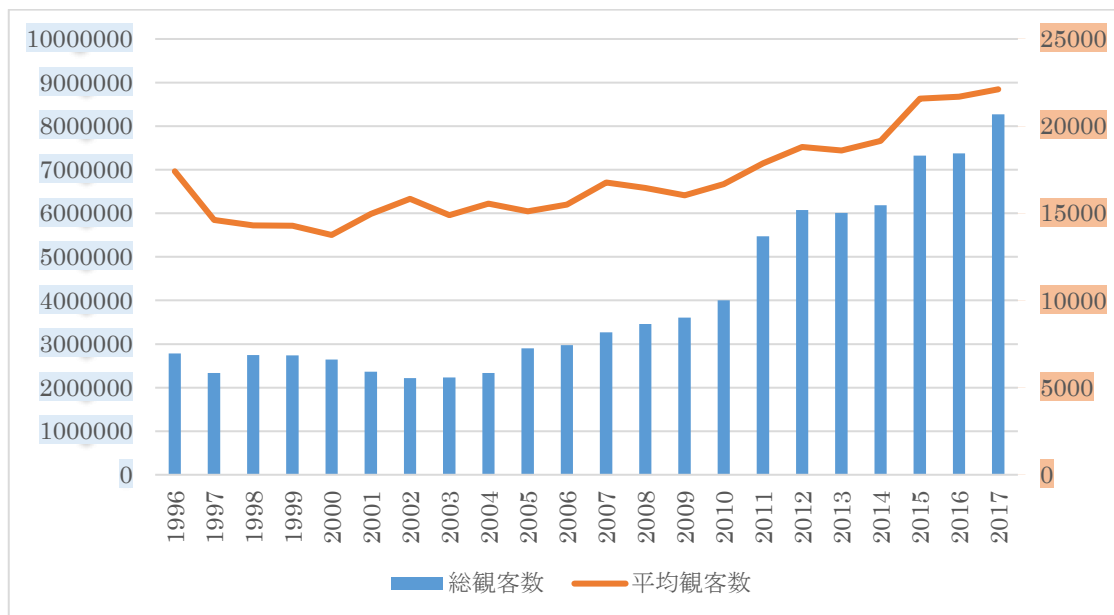


図 57 MLS 平均観客数と総観客数

こうした MLS を取り巻く状況の背景には、もちろんアメリカの経済力を考慮しておく必要がある。図 58、図 59 に日米の GDP の変化を示す。2001 年の IT バブル崩壊や 2009 年のリーマンショックを乗り越え、アメリカの GDP が順調に伸びていることがわかる。

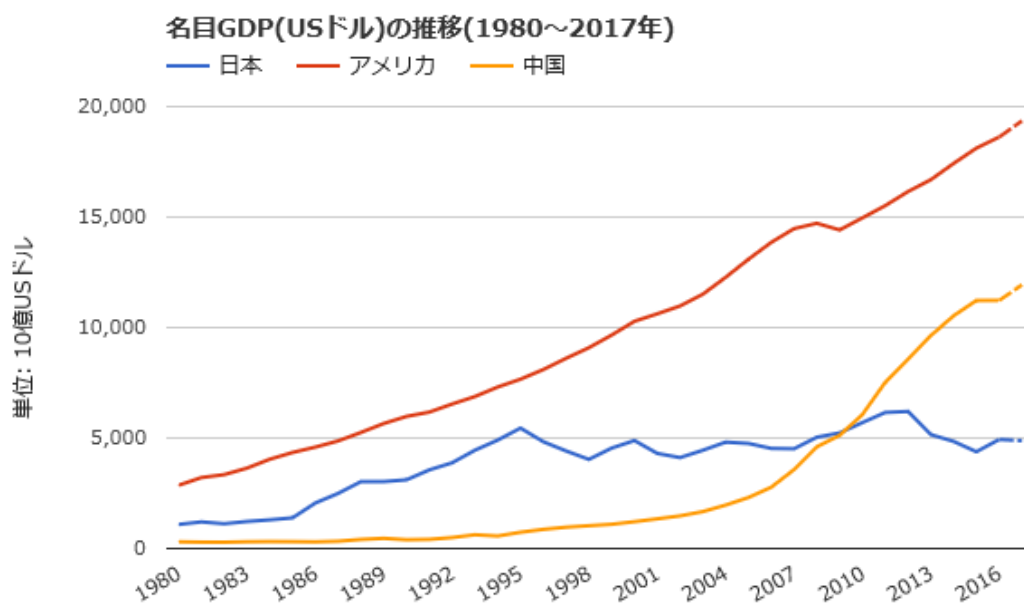


図 58 名目 GDP の推移⁸⁵

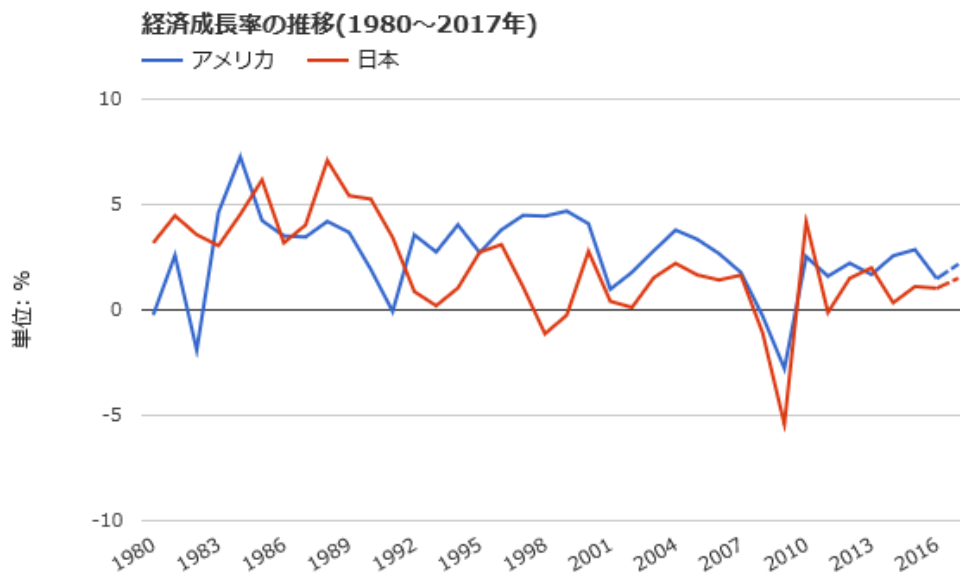


図 59 経済成長率の推移 ⁸⁶

図 60 に示す NY ダウ平均株価の推移をみても同様な傾向を見ることができる。

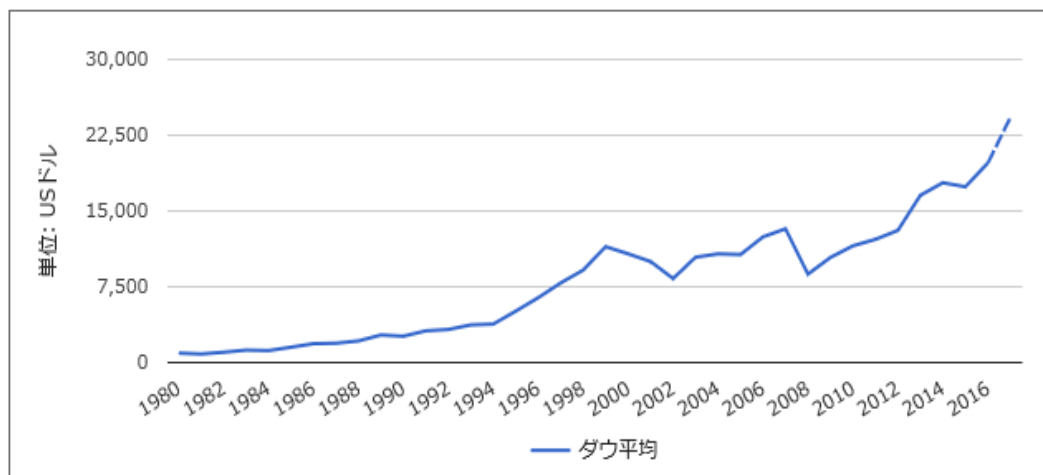


図 60 ダウ平均株価の推移 ⁸⁷

第5節 スタジアムの工事費、所有者等

図 61 は MLS サッカー専用スタジアムの工事費を示している。大幅に改修が行われている、ポートランド、トロント、モントリオールは除き、今後使用されるワシントン D.C.、サンフランシスコ、ナッシュビルの計画案を加えている。各スタジアムのグラフは左（緑）が工事総額（M\$）、右（赤）が一席当りの工事費（\$）を示している。左から完成の古い順になっていて、当時の物価の影響も考慮する必要はあるが、全体としては新しいものほど全体工事費も一席当りの工事費も高くなっているという傾向が見られる。15 のスタジアムを 5 つずつグルーピングすると、一席当り工事費の平均は古い順に 4500 \$、7000 \$、8500 \$ となっていて、特に今後完成するスタジアムは一席当りの工事費がほぼ 10000 \$ となっている。

一方、MLS と兼用されている NFL スタジアムも、2000 年代に完成した Gillette Stadium、Century Link Field、TFC Bank Stadium は一席当りの工事費が 5000～6000 \$ 程度でサッカー専用スタジアムと比較して特に高額ということはないが、2017 年に完成したアトランタの Mercedes-benz Arena は一席当り 20000 \$ を越えていて、MLB の Yankee Stadium は一席当り 30000 \$ を越えている。映像装置や WiFi などの設備が高額となる一因となっている。

また表 4 はサッカー専用スタジアムの所有者、運用者を示している。⁸⁸ ●は公的な組織の所有、○はサッカーチーム自体やその関連会社の所有、運用を示している。すべてのスタジアムの運用はチーム関係者で行われている。それに対し所有権は 8 対 7 と公的な組織が上回る。ただしこの表はスタジアム完成年順に並べているので、完成年が新しいほど○が増えていく傾向が読み取れる。特に Rio Tinto Stadium の完成した 2008 年以降は、民間所有のスタジアムが増えていることを示しているデータとして興味深い。

2005 年のレポート⁸⁹によると、「米国のスタジアム・ファイナンスはスタジアムを利用するプロスポーツ・チーム（或いはチーム・オーナー）と地方自治体等の公的部門とがスタジアム建設コストを共同で負担する、所謂 Public-Private Partnership の形態をとることが最近は一般的である」と指摘している。この傾向が変わったのがサッカーの特殊性なのか、ほかのスポーツにもみられる傾向なのかは、別の機会に研究を深めたい。

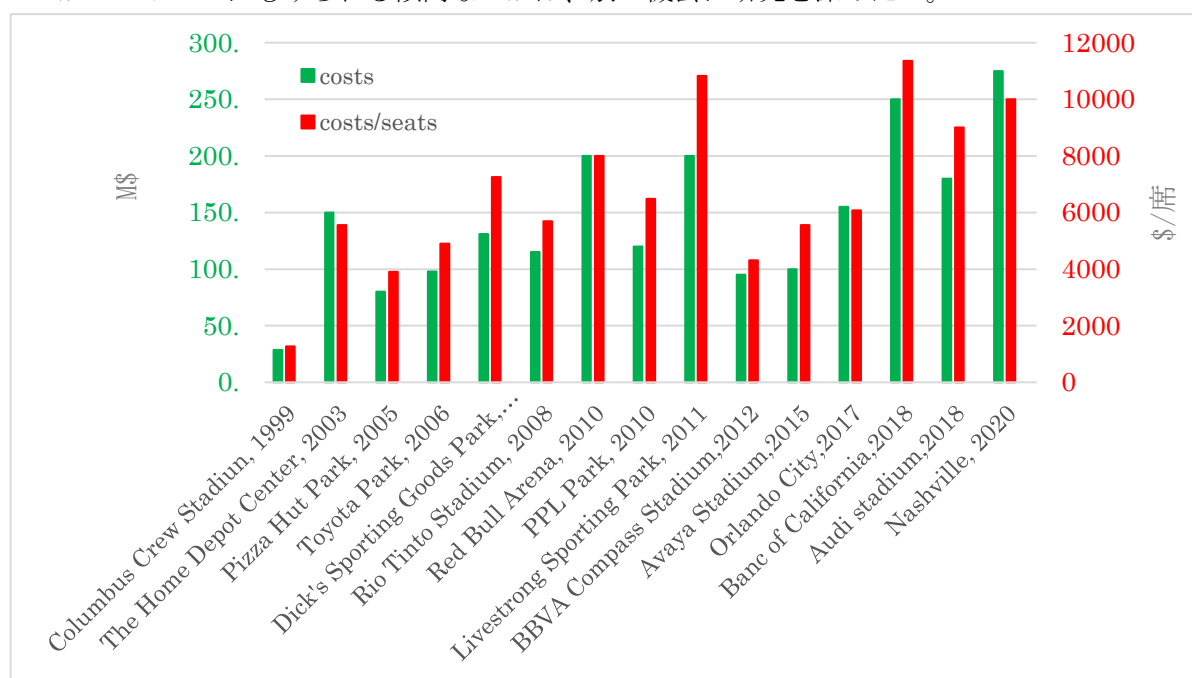


図 61 MLS スタジアムの工事費

表 4 MLS スタジアムの所有者、運営者

Stadium	Year	Owner	Operator
Providence Park	1926	● City of Portland	○ Peregrine Sports,LLC
Mapfre Stadium	1999	○ Precourt Sports Ventures LLC	○ Precourt Sports Ventures LLC
StuHub Center	2003	○ AEG	○ AEG
Toyota Stadium	2005	● Frisco City	○ Frisco Soccer LP
Toyota Park	2006	● Bridgeview	○ Bridgeview
BMO Field	2007	● Toronto City	○ MapleLeaf Sports & Entertainment
Dick's Sporting Goods Park	2007	● City of Commerce City	○ Kroenks Sports Enterprise
Rio Tinto Stadium	2008	○ SCP Worldwide	○ SCP Worldwide
Stade Saputo	2008	○ Saputo	○ Montreal Impact
Red Bull Arena	2010	○ Red Bull GmbH	○ Red Bull GmbH
Talen Energy Stadium	2010	● Delaware	○ Keystone Sports and Entertainment LCC
Children's Mercy Park	2011	○ Kansas Unifield Development LLC	○ Sporting Kansas City
BBVA Compass Stadium	2012	● Harris County-Houston Sports Authority	○ AEG
Avaya Stadium	2015	○ San Jose Earthquakes	○ Earthquake Soccer LLC
Orlando City Stadium	2017	○ Orlando City SC	○ Orlando City SC

2012 年完成の BBVA Compass Stadium の資金計画を表 5 に示す。85.6M\$ のうち、※1、※2 の 2 項目が公的資金と考えられるが、その合計は 25.6M\$ で全体の約 30% にすぎない。

表 5 The Houston Dynamo Stadium の資金計画⁹⁰

項目	金額
銀行借入	3,300 Amegy Bank
自己資金	2,040 Dynamo Stadium Holdings
NMTC 税控除	510 NMTC※1 による税控除 (2550 万ドル) のネット効果
TIF 債権	2,000 TIM※2
株式発行	560 チーム・スタジアムのオーナーである AEG による資金調達
リース料	150 テキサス南部大学からの施設リース料 (30 年) 先払い
総事業費	8,560

※1 : New Markets Tax Credit Program (新市場税控除プログラム) 連邦政府が制定したコミュニティ再生のための租税特別措置の一環として創設されたプログラム。

※2 : Tax Increment Financing (増税を担保とした債権) 固定資産税の増収を担保とする債券発行。都市整備に伴う開発利益 (地価上昇) を必要な都市整備費に還元する資金調達方法。

第6節 MLS のコンセプト

MLS のビジネスとしての特徴は、①リーグ経営安定化のためのシングルエンティティの思想と、サラリーキャップ制による選手年俸高騰の抑制、②満員のスタジアムを生み出すための適切な規模のスタジアム建設とチケットセールスのシステム化、③勝負に最後まで興味をつなぐためのドラフト制度やプレーオフの採用、④Expansion によって徐々にチーム数を増やしつつ、降格のない一リーグ制とすることによる投資意欲の維持、の4点にまとめることができるが、コンセプト全体はシングルエンティティという言葉に象徴される。

すなわち、「1つの会社には人事部や経理部があるのと同様に、リーグ機構とチームを実質的に1つの会社とし、そしてリーグに所属するチームを各部署とみなす運営方法。そのため、社員が部署ではなく会社と契約するのと同じように、選手はチームではなくリーグ機構と契約する」⁹¹という点にリーグの特徴がある。1970～80年代のNASLがニューヨーク・コスモスという突出したチームを作ることによって失敗した歴史を鑑み、勝負面だけでなく経済面でも抜け駆けするチームが出ないようにシステムが構築されている。チームのオーナーは地元で根差したチームを作り、対するMLSはリーグを全国区に広げること、というように明確にすみ分けができていて、中央集権により給与をしっかりとコントロールし、選手にむやみな投資をすることがないようにシステムが出来上がっている。⁹²

リーグの収支の詳細は明らかにされていないし、あえて透明性を保とうともしていないように見える。ただし、地方局の放映権、スタジアムでの商品販売、地元のスポンサーや駐車場やスタジアムでの収入などはオーナーが直接受け取る権利を持つ一方で、収益のある部分はMLSに納めなくてはならない。例えば、チケット販売の30%、選手移籍に関する収入の25～44%である。全国放送の放映権やリーグ自体のスポンサーやオンライン商品販売からの利益はMLSが直接受け取る。MLSの収入で一番大きいのは、国内の放映権であり、2015年シーズンからMLSはESPN、Fox、Univisionという国内放送局との契約で毎年90M\$を得ているし、アディダスとも大きな契約が2024年まで延長された。

支出面から見ると、MLSはチームへの分配金やすべての一般選手の給与を負担する。その他の運営上の支出はほとんどそれにはスタジアムの費用（建設費あるいは賃貸料）、アカデミーやトレーニングなどの選手育成費、スタッフなどのフロント費用、マーケティング、販売、運営、コーチなどの予算に加え、チーム旅費やサラリーキャップを超える特別指定選手の給与などは投資～運営者自身が負担することとなっている。

契約形態だけでなく、サラリーキャップ制や前年下位チームから指名するドラフト制度などにも特徴があり、その精神は平等な条件のなかで各チームが切磋琢磨するという厳しい競争にある。⁹³ プレーオフの存在も大きな特徴で、2017年シーズンを例にとると22チーム中12チームがプレーオフに進んでいる。これによってファンもスポンサーも最後まで興味をつなげるというメリットがあり、多くのチームに優勝のチャンスがあることになる。2017年シーズンは結果的にレギュラーシーズンで最高の成績を収めたトロントがプレーオフを制して、順当に最後はMLS Cup 勝者となった。トロントにとっては初めての優勝で、1996年のワシントンから数えて、22年で12番めの優勝チームとなった。欧州の、特にドイツやスペインのリーグ戦が極めて限られたチームにしか優勝の可能性がない状況と比較すると異質に見えるだろう。

サラリーキャップを設けている一方で、2007年からは各チーム3人（当初は2人）まで

その枠を超えたサラリーで契約できるという特別指定選手制度を導入している。2007年にこの制度を使って初めて MLS に加入した選手がベッカムだったことから、別名ベッカムルールと呼ばれているこの制度は、実力や人気のあるプレーヤーを MLS に参加させることでリーグの注目度を上げようというものだ。この制度の導入を境に MLB は当初の守りの経営から攻めに転じたと考えられる。

MLS にはほかのアメリカのプロスポーツと同様、そしてヨーロッパなどのサッカーと違って降格という概念がないので投資の対象となりやすいというメリットがある。MLS のオーナーはみな、MLS, LLC という一つのビジネス単位に対して投資を行っていて、一緒に成功もすれば、失敗する時も一緒である。彼らは最初の投資を LLC に行い、もし MLS が利益を得れば、彼らは出資額に比例してみんなが利益を得る。

図 62 は MLS に加入するチームの登録費 (Expansion Fee) の変遷を示している。⁹⁴ 2004 年には 10M \$ に過ぎなかった登録費は 2017 年には 15 倍に高騰していることがわかる。特に 2010 年を境に大きく傾向が変わっている。

2017 年は 22 チームが参加している MLS は近い将来 28 あるいは 30 チームまで増やす考えがあるといわれている。2018 年には LA のチームの参加が決まっている。LA はすでに Galaxy が存在するので、2 つめのチームとなる。(過去には Chivas というチームも存在したが 10 年で消滅した) 2018 年にはマイアミのチームも権利を得ていてそのオーナーはベッカムだといわれているが、なかなかスタジアム用地の確保できず正式な参入が発表されずにいた。ようやく 2018 年 1 月に加入の承認が発表されたが、具体的なスケジュールは明らかにされていない。

2020 年に加入する 2 つのチーム名に対し、Expansion の候補に挙がっている都市は 12 から 4 都市に絞られ、まずは Nashville の勝利が報告されている。もう 1 チームがほどなく決まり、ここで負けた 2 チームは残りの 8 チームと一緒に改めて次に参入する 2 チームの座を争うことになる。まだしばらくは熾烈な争いが続くことになるのだろう。



図 62 MLS チームの Expansion Fees ⁹²

図 63 は MLS の一部チームの収入を示している。一番多いのは LA Galaxy で年収は 60M \$ であり、これは日本の浦和レッズの一年の収入と大きな差がない。この数字と登録料やスタジアム建設費などはどう考えてもバランスしない。そこに投資という概念が存在する。

MLS はバブルだという指摘があるし、新しい投資家からの資金が、成長する収入や実際の価値の代わりにリーグが漂流するための資金となっていてまるでねずみ講のようだという意見もあるが、こうした旺盛な投資意欲がアメリカという国のスポーツビジネスを支えていると考えられる。

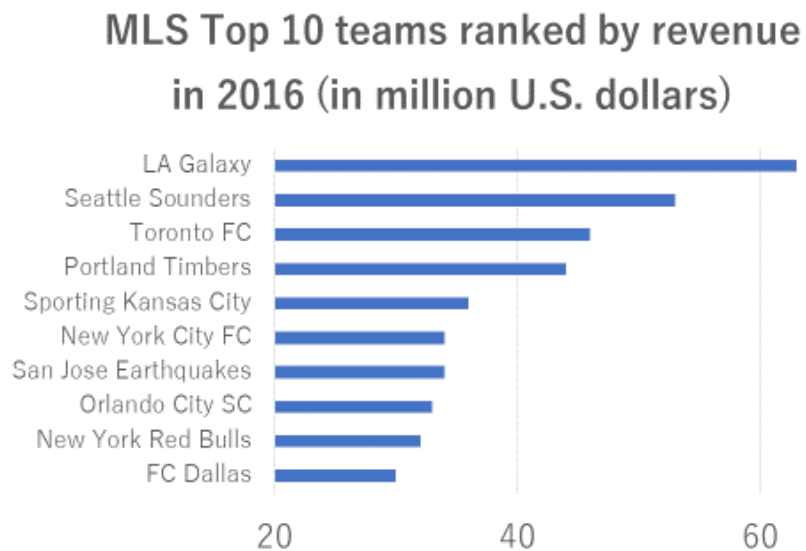


図 63 MLS チームの収入 ⁹⁵

第6章 考察

第1節 建築的視点

第1項 サッカー専用スタジアムの形状分析と変遷

サッカースタジアムは長方形のピッチを取り囲むようにスタンドが設けられるので、その4面それぞれにどのようなスタジアムを設けるか、さらにそこにどのように屋根をかけるかによって形状が左右される。ここではスタンドと屋根の構成に絞ってMLSスタジアムの変遷を見ることとする。

MLSのサッカー専用スタジアムは3万以下の中規模のスタジアムを作り、それを満員にして盛り上げるというリーグのコンセプトのため、欧州にみられるような何段にも重なる層状の巨大なスタジアムはなく、せいぜい2段までのスタジアムが周りを取り囲んでいる。一方ほかのアメリカのプロスポーツ同様にVIP席、ビジネスラウンジは充実していて、スタンドの様々な場所に特別席が設けられている。また、屋根がいくつの面にかけられているか、それが互いに連続しているかどうかなどで形状が特徴づけられる。

MLS初期のサッカー専用スタジアムの特徴は、屋根も少ない安価なコの字型に始まるが、続いてスタンドを3面にコの字型に配置して残るサイドの一面はコンサートのステージなどに使えるよう観客席を常設しないというスタイルが生まれる。当時このような発想は、観戦環境を重視する欧州などの同規模のスタジアムではありえないものであった。これが可能となる一つの原因は、広大な国土を持つアメリカにおいては移動が容易でないことから、相手チームのサポーターがあまり来場しないことがあげられる。多くの相手チームサポーターが片側のゴール裏に陣取り、敵地でも声援を続けるドイツや日本のサッカー文化との大きな差異を見ることができる。

このような形式はToyota stadium (2005) ではじめて見られ、Toyota Park (2006) が続き、さらに1999年に完成していたMapfre Stadiumが2008年の改修によってそれに続いた。この3つのスタジアムはコンサートステージ用の屋根を常設するが、Toyota Park以外は観客席スタンド上部には屋根もなく、歓声の反響音による盛り上がりなども考慮されていない。BMO Field (2007)、Dick's Sporting Goods Park (2007) までサイドの一面には大きな常設スタンドを設けず、コの字型のスタンドが配置されたスタジアムが続く。ステージ屋根の有無の差はあるものの、ここまでの一連のスタジアムは、コの字型の多目的使用を重視したスタジアムと定義できる。1970～80年代にNASLで一度失敗を経験しているアメリカのプロサッカーはこの時期、スタジアムから見てもサッカー以外の収入を前提に建設が進められる例が多かったことがわかる。リーグ設立からしばらくは観客数も伸びず、リーグの将来が明確に見えていなかった時期でもある。Mapfre Stadiumの改修からもその不安が感じ取れる。Columbus Crewの観客数は1999年の一試合平均17,696人から2005年には12,916人まで落ち込んでいる。このような背景が独自のスタジアムスタイルを生んだと思われる。

唯一の例外はLos Angeles Galaxyが本拠地としたStubHub Centerで、ここでは屋根こそスタンド全体を覆っていないものの、スタンドは4周に存在してピッチを取り囲む雰囲気表現している。Galaxyは初年度から28,000人を超す観客を集め、設立時の10チームの中でも圧倒的な集客力を誇っていた。例えばダラスと新スタジアム建設以前の一試合平均観客数を比べてみると、ロサンゼルスは7年間通算で約20,800人、ダラス

は 11,600 人と倍近い差となっている。この差が専用スタジアムを作る際の意識の差になっていたものと考えられる。

2008 年に完成した **Rio Tinto Stadium** は、屋根こそ 2 面にしかないがスタンドは 4 面に連続して回し、サッカー観戦に集中するスタジアムとなっている。屋根は 2 面だが、その角度は雨水を防ぐだけでなく、むしろ観客の声がピッチに反響させ選手のヴォルテージを増す方向に演出することを狙っていると推察される。こうした傾向は **Red Bull Arena** (2010 年) でより明確になる。ここでは 4 面に屋根付きスタンドが連続的に配置されていて、屋根自体もほぼ途切れることなく 4 周を取り巻いている。こうした完全に囲われた空間でサッカー観戦を行うことはヨーロッパでは当たり前のことだが、サッカーとして欧州では当たり前の空間を作るのに、アメリカではリーグ創設から 16 年という時間を必要とした。このスタジアムが熱狂を増幅するという観点で秀逸なのは、2 階席の構造にある。2 階席は鉄骨構造で床も鉄板でできていることで、足を踏み鳴らす観客の声を振動が周辺に伝搬する。屋根による歓声の反響と相まって、観戦の興奮が高まる工夫がなされている点は大変重要であると考ええる。こうしたスタンドをコの字型に設けて屋根の構造や様々な工夫により観客の観戦環境を向上させる観戦重視型のスタジアムがアメリカでも徐々に増えていった。背景にはリーグ設立から 10 年が過ぎ、観客のゲームに対する興味の方向が変わってきたことがあげられる。形状的に言えば、コの字型からロの字型（伝統的・専用）への変化であり屋根の数の増加もこの流れを加速させている。図 64 は上段にコの字型・多目的スタジアム、下段にロの字型・伝統的専用スタジアムを並べているが、外観からもその違いは明快である。(写真は第 5 章の再掲)



図 64 コの字型・多目的スタジアムとロの字型・伝統的専用スタジアム

伝統的・専用のロの字型プランを持ったスタジアムが増えていく中で、2010 年に完成した **Talen Energy Stadium** は少し趣が異なっている。このスタジアムも当初は時代の流れに合わせて欧州にある囲われた雰囲気のあるオーバル型のスタジアムを目指して設計が進められたが、サポーターとの対話を通じて大きな変更が加えられた。その内容はサポーター席に関するもののほか、街のシンボル性である橋を多くの席から見えるようにするというものであった。街との関係という概念は **MLS** スタジアムに初めて持ち込まれたものであるが、街とのつながりを重視することで市民から愛されるスタジアムを目指す傾向が強まっていく。

そこには **MLB** や **NFL** のスタジアムの影響を見ることができる。特に常に満員の観客を収容しチケット獲得も困難な **NFL** に対し、**MLB** は選手のストライキなどの影響もあって 90 年代前半は観客数の落ち込みに苦しんだため、その対応も含めスタジアムに新

しいアイデアを持ち込み、観客数の回復を成し遂げた。1992年に完成した **Oriole Park at Camden Park** では古き良き時代のスタジアムを彷彿とさせる「ネオクラシックスタイル」で左右非対称のフィールドに特徴で、その後に完成したスタジアムの規範となったと言われている。⁹⁶ 1990年代に8つ、さらに2000年～2010年に13のスタジアムを完成させた MLB は、ボールパークという概念を取り入れて野球以外にも楽しめる要素をふんだんにスタジアムに取り入れ、90年代に年間5000万人台まで落ち込んだ観客数が、2000年代以降は7000万人台を安定して記録するように変化した。多種に及ぶ座席種類による観戦の多様性、子供遊べるような遊具などの施設の設置、そしてスタジアムから街の姿を見せることで、スタジアムを街のシンボルと認識させる手法など、そこで取り入れられたアイデアは多岐に及ぶ。

例えば MLB ピッツバーグのスタジアム **PNC Park** (2001年完成) では、街のシンボルであるロベルト・クレメント橋やダウンタウンの高層ビルがスタジアムからよく見えるように、スコアボードや照明塔の位置やスタンドの形状を工夫している。MLS と兼用している NFL シアトルのスタジアム (2002年完成) でもサイドスタンド脇に空間を作り、街を感じる工夫が施されている。

2017年現在の MLB スタジアムには「PARK」と名の付くスタジアムが14存在するが、そのうち11が2000年以降に建設された。まさに2000年代はアメリカの野球場が多様化した時代だったと考えられるが、その時期に新設が始まった MLS のサッカー専用スタジアムがその影響を受けるのは自然の流れだったと思われる。

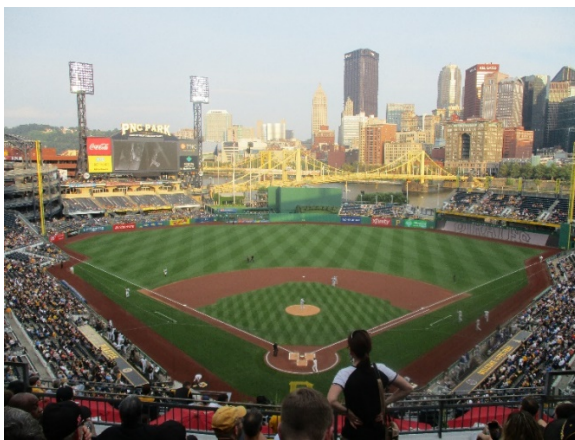


図 65 PNC Park (ピッツバーグ)

2015年完成の **Avaya Stadium** の場合は、サイドスタンドを一面なくし、隣接する空港に発着する飛行機を見せながら、バーカウンターや大きな芝生スペースを設け、家族連れでも楽しめる、あるいはサッカー観戦以外にも楽しみを用意するというコンセプトが明快に示されている。MLBに見られる家族で楽しむというアメリカのスポーツの特徴がここでも形になって表現されている。表裏の攻防の切り替えがあり、席を離れる機会の多い野球と違って、サッカーはいったんゲームが開始されるとハーフタイムまではなかなか席を立ちにくい。プレーが連続しているということに加え、得点の場面が少ないのでその場面を見逃さないためには席に留まる率が高い。そのため野球ほど遊具を置くなどのアイデアが効果を発揮しにくい点にスタジアム設計の難しさがあるが、**Avaya Stadium** ではそこを大胆に割り切り、子供たちにプレー中でも芝生で遊ぶ権利を与えた。

表 6 2000 年～2010 年に完成した MLB スタジアム ⁹⁶

球場名	チーム	完成年	収容数	特徴
Comerica Park	Tigers	2000	41,681	虎のオブジェ 小型観覧車
Minute Maid Park	Astros	2000	40,963	ボルケーノ/火山
AT&T Park	Giants	2000	41,915	海 ボードウォーク
Miller Park	Brewers	2001	41,900	扇型開閉屋根
PNC Park	Pirates	2001	38,362	ダウンタウンや橋の眺め
Great American Ball Park	Reds	2003	42,271	白と赤 名選手像 育児ルーム
Citizen`s Bank Park	Phillies	2004	43,651	自由の鐘 人気料理店
Petco Park	Padres	2004	42,302	海を連想の青 スイートルーム
Busch Stadium	Cardinals	2006	45,399	ゲートウェイアーチ 商業施設
Nationals Park	Nationals	2008	41,408	家族連れ施設 国会議事堂
Yankee Stadium	Yankees	2009	50,329	パレス/宮殿 ミュージアム
Citi Field	Mets	2009	41,800	ファンフェスタ スカイライン
Target Field	Twins	2010	39,021	牧歌的雰囲気

MLS 初期のスタジアムは多目的使用のためにサイドの一面に常設スタンドを設けないという発想を設計に取り入れた。これはサッカー観戦の常識を破るもので、サッカー観戦が文化として完成している欧州では考えにくい発想であった。Avaya Stadium などにみられる設計は、MLS 初期からの独自の発想を別の形で継承したものと考えることができる一方で、コの字型スタンドの発想が形を変えて復活したともみることができる。



図 66 Avaya Stadium

また観客数の増加に伴い、小さなスタジアムを満員にするという MLS のコンセプトにも変化が見えている。トロントは 2007 年に完成したスタジアムを使用している。サイドに席がなく屋根もない典型的な多目的型のスタジアムであったが好調な満席率を背景に 2015 年に 8,400 席を増設し 3 面に屋根を設けた。その結果 2017 年は 27,647 人というサッカー専用スタジアムでは最高の集客力を発揮し、さらに MLS カップ（リーグ戦後のプレーオフ）でも念願の初優勝を果たすという結果ももたらした。

2017 年に使用を開始したオーランドでは設計中に集客数を変更するという状況が発生した。2013 年に MLS に加入したオーランドは 2 年間アメリカンフットボールのスタジアムを使用していたが、その 2 年間にともに 30,000 人以上の観客を集めた。そこで当初 19,000 人で計画していた 3 面スタンドの計画を変更し、4 面にスタンドも屋根も設け

る 25,500 人を完成させた。ちなみに初年度（2017 年）の満席率は 98%となっている。

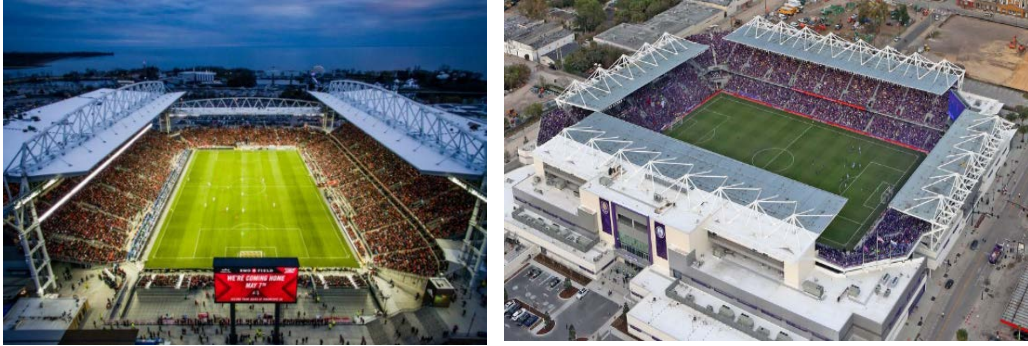


図 67 収容数を変更したスタジアム（再掲）

2018 年に MLS に加入するロサンゼルス・ソニックスのスタジアムでは正面スタンドとサイドスタンドの間に空間を設け、遠く市街地の高層ビルを眺めることができるデザインとなっている。

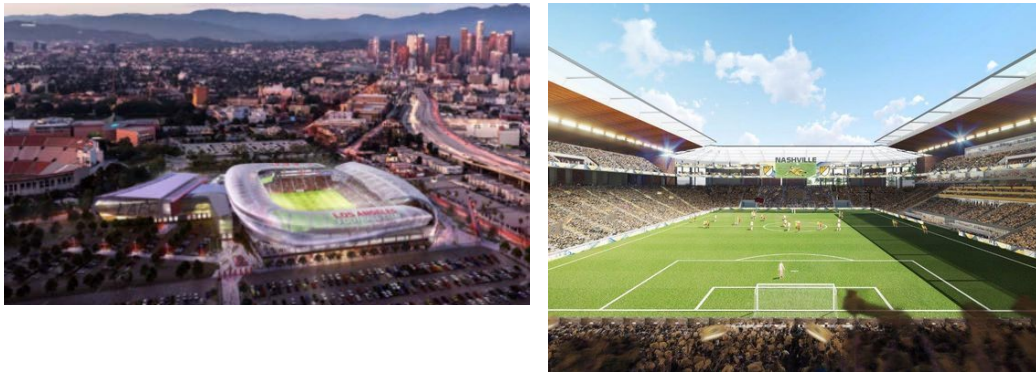


図 68 街とのつながりを考慮したスタジアム 97

また 2017 年 12 月に新しく Expansion チームに選出された Nashville はその提案の中でサイド一面のスタンドを小さく抑え、街の風景を見せながら街との一体性を表現している 27,500 人収容のスタジアムを示しているが、一方でビジネスが順調に伸びた場合には、その部分に席を設け 30,000 人への増設の可能性も提示している。

このようにここ数年の MLS スタジアムは多様な傾向を示していて、コの字型・多目的、ロの字型・伝統的・専用が続く新しい兆候ととらえることができる。ここでは、非ロの字型・増築型専用と定義するが、ポイントは MLS 人気の上昇に伴う拡張性と、街のシンボルとしての開放性・象徴性の 2 点とまとめることができる。

表 7 にサッカー専用スタジアムを建設年順に並べ、コの字型・多目的型（薄い青）～ロの字型・伝統的・専用（濃い青）～非ロの字型・増築型・専用（緑）という変遷をまとめた。スタンドについてはそれぞれの位置のスタンドの段数を示している。また、スタンドの段数とは別にラウンジの層数は（ ）内に示している。正面、バックスタンドにはあまり大きな差はみられないが、サイドスタンドには多くのバラエティがあり、それがアメリカのスタジアムの特徴となっていることは前述のとおりである。

一方、屋根については 4 つの部分のうち何か所に屋根があるかを数値で示していて、さらにそのうち形状的に連続しているものは連続している屋根の箇所数を示した。また総数の中に記した S の文字は、常設されたコンサートステージ用の屋根を示している。

時期とともに形式が変化していくことがよくわかる。

表 7 MLS サッカー専用スタジアムの構成

Stadium	タイプ	使用年	収容数	スタンド				屋根	
				正面	バック	サイド1	サイド2	総数	連続性
Mapfre Stadium		1999	19,968	2	2	ステージ	VIPx2	0+S	0
StubHub Center		2003	27,167	1(2)	2	1+芝	2(1)	2	0
Toyota Stadium		2005	20,500	1(2)	1	ステージ	殿堂	0+S	0
Toyota Park		2006	20,000	1(1)	2	ステージ	1	2+S	0
BMO Field		2007	20,000	2(1)	1	テラス	1	0	0
Dick's Sporting Goods Park		2007	18,061	1(2)	1	テラス	1	2	0
Rio Tinto Stadium		2008	21,030	1(2)	1	1	1	2	0
Red Bull Arena		2010	25,000	1(2)	2	2	2	4	4
Talen Energy Stadium		2010	18,500	1(2)	1(2)	1(1)	1	2	0
Children's Mercy Park		2011	18,467	1(1)	1(1)	1	1	4	4
BBVA Compass Stadium		2012	22,309	2(1)	2	2(1)	2(1)	2+S	0
BMO Field(Renewal)		2015	28,500	2(1)	2(1)	テラス	1	3	0
Stade Saputo		2012	20,801	1(2)	2	1(1)	1(1)	4	3
Avaya Stadium		2015	18,000	1(1)	1(1)	テラス	1(1)	3	3
Orlando City Stadium		2017	25,500	2	2	1(連続)	2	4	0

第2項 ほかのスポーツとの兼用スタジアム

1996年のMLS設立時にはすべてのチームがアメリカンフットボールのスタジアムを使用してリーグをスタートさせた。その後リーグの推奨に従い各チームがサッカー専用スタジアムを整備していく中で、ニューイングランドだけは、NFLのPatriotsと兼用を前提としたスタジアムを2002年に新設した。アメリカンフットボールスタジアムを使用する際の問題点としては、①大きすぎる観客収容数、②競技スペースの幅、③アメフトはライン際に選手などが並んでいるため、その頭越しにプレーを見るためスタンドのレベルを上げていること。④人工芝、⑤スケジュール管理などがあげられている。①については観客が埋まらない座席にシートをかけ、ピッチに近い席に観客を集中して入れるという運用でカバーされている。②、③については設計での対応となるが、特にサッカーではすべての座席からコーナーキックを蹴る選手の足元が見えるようにするのが理想だ。これも含めて兼用を前提として検討すれば設計での対応は可能だと思われる。④については、近年では一定の品質向上が見られFIFAの公式戦でも使用の事実がある。⑤については、種目が違ってもオーナーが同じプロチームなら調整が可能ということだろう。それを条件に兼用が認められている。ニューイングランドのスタジアムは大きな観客動員には結びついていないが、2009年加入のシアトル、2017年加入のアトランタでは平均で40,000人以上の集客に成功していて、特にアトランタでは2017年に2度にわたり一試合で70,000人以上の観客を集めた。

図69は、タイプ別のスタジアム数と平均観客数の推移を示している。図70は各チームの一試合平均観客数をスタジアムのタイプ別に合計したものである。ここから読み取れることは以下の点となる。①2007年から観客数が増加し、2015年からさらに増加の傾向にある。②古くからあるほかのスポーツスタジアムの観客比率は減少している。2015年のYankee Stadium使用により若干盛り返したように見えるが、ワシントン、ミネソタにサッカー専用スタジアムが完成すると、ますます減少となる。③NFL+MLS兼用考慮したスタジアムの躍進が目立つ。特に2017年のアトランタの参画によってこの傾向は明らか

となる。④多目的重視専用スタジアムは 2012 年からの減少傾向にある。⑤2008 年からの観戦重視スタジアムが増加傾向にある。⑥拡張重視スタジアムはこのところ緩やかな伸びを示している。

図 70 のように観客数で示すと上記の③④の傾向がさらに顕著であることがわかる。

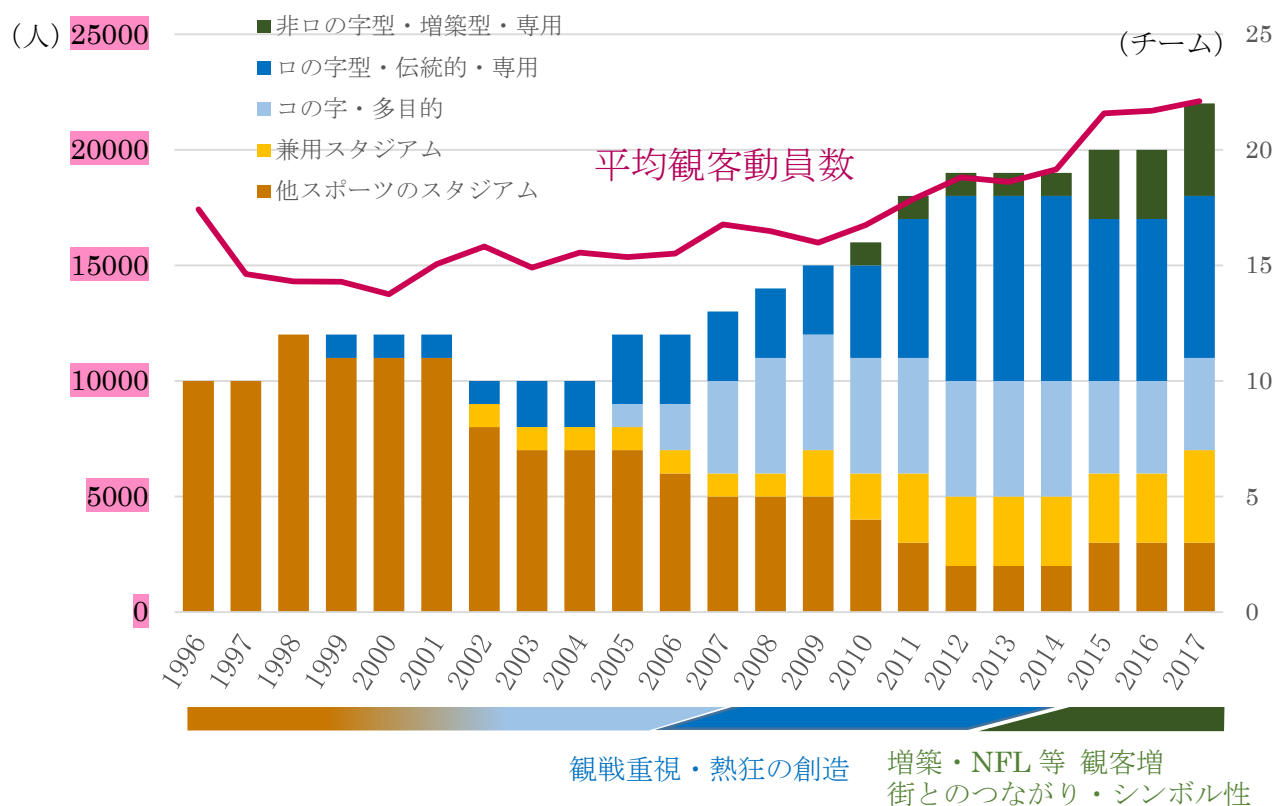


図 69 平均観客数とスタジアムタイプ別のチーム数

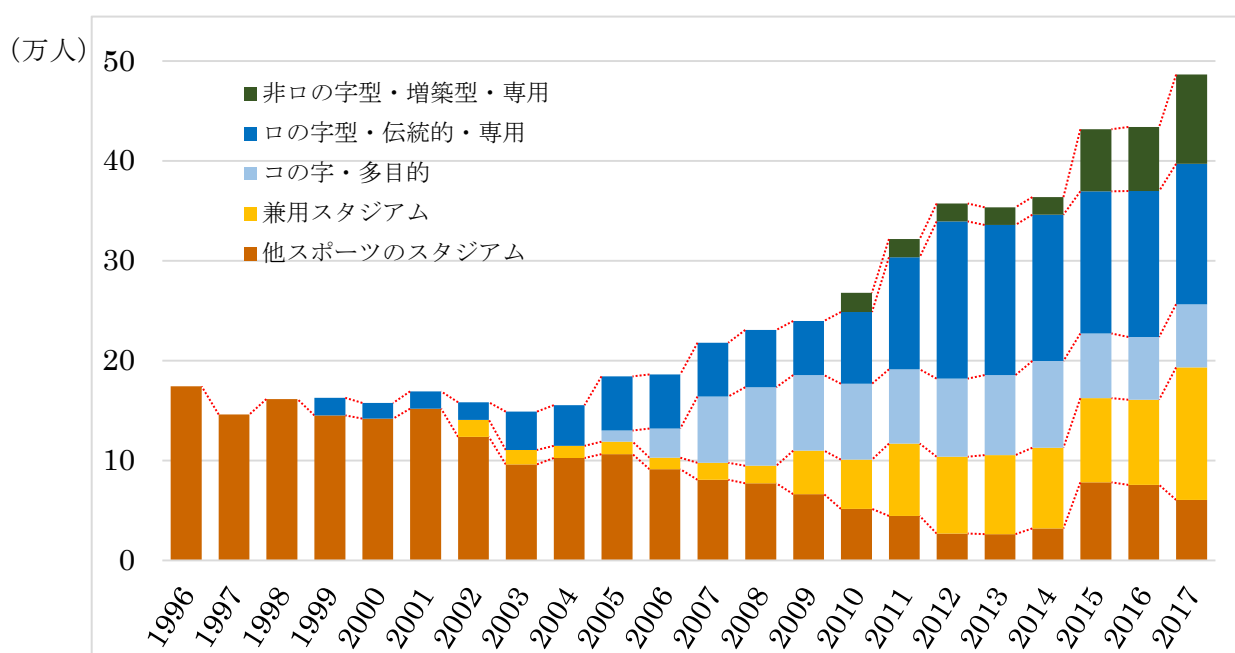


図 70 スタジアムタイプ別の平均観客数合計

第2節 MLS ビジネスの視点から見たスタジアム

第1項 MLS の黎明期

MLS は 1996 年の設立にあたり、1870～80 年代の NASL の失敗の反省から、シングルエンティティをコンセプトに慎重なスタートを切った。それがスタジアムにも影響を与えている。設立にあたりリーグは各チームにサッカー専用スタジアムの保有を推奨したが、まずは大学や NFL のアメリカンフットボールスタジアムを使うことを許容した。フットボールスタジアムは、サッカーには大きすぎる収容数、競技場の幅、観客席のレベル、人工芝などに難があるとされていたほか、スタジアム使用の優先権がないためにスケジュール管理が自由にできない点が指摘されていて、それが専用スタジアム保有推奨の大きなポイントであった。

1999 年に初めてのサッカー専用スタジアムができるが、リーグはコンセプトとして過大な規模のスタジアムを作らず 2～3 万人程度の適切な規模とし、それに対してチケットセールスに力を入れて常に満員のスタジアムで興奮を演出することを意図した。

一方で、スタジアム設計にあたっても MLS ならではの特徴が見られた。2005 年に完成した Toyota Stadium は、一面のサイドスタンドに常設スタンド持たず、コンサートステージ屋根を設置することにより、コンサートなど多様な使い方が目指されたが、これも前回の失敗の反省からスタジアムやチームにサッカー以外の収入を確保することがテーマであった。この手法は 2006 年に完成したシカゴの Toyota Park でも踏襲され、1999 年に完成していたコロンバスの Mapfre Stadium もわざわざ改修し観客数を減らしてステージ屋根を増設したが、これはアウェイ客が少ないために可能な形式ともいえる。初期の MLS スタジアムは、スタンド上部にもあまり屋根がなく、工事費を抑えた安価な作りとなっていることも合わせ、まずは事業の安定を目指していたと考えられる。

そうした背景には 2001 年の同時多発テロ、IT バブル崩壊などの流れの中で、MLS のチーム数や観客数がリーグ創設後しばらく停滞したという状況もあったと考えられる。

第2項 MLS の発展期

スタジアムの形状は 2008 年～2010 年を境に大きく変容した。その背景として GDP や NY ダウ平均株価などにみられるアメリカの好景気や、MLS チーム数や平均観客数の変化があり、その結果としてスタジアムの所有形態などにも変化が見られる。スタジアムも 2008 年以降民間資金での建設が目立つようになり、ファンの嗜好が欧州タイプのスタジアムを望むようになるにつれ、4 面に屋根付きスタンドを持つコの字型スタジアム比率が高まり、観戦を重視したスタジアムが多くみられるようになる。

転機は 2007 年にあった。特別選手指定制度（ベッカムルール）の採用により、観客数やチーム数に増加傾向がみられ、サッカーでの集客に確信を持つ中で建設された専用スタジアムが目立つ。

ここで、スタジアムタイプの違いが観客数に影響を与えているかどうかを検証してみた。もともとフットボール用のスタジアムを使っていて MLS 参入後に新スタジアムを建設したチームを選び、そのサッカー専用スタジアムがコの字型・多目的かの字型・伝統的専用かに分類した。前者はコロンバス、ダラス、シカゴ、コロラドの 4 チーム、

後者はロサンゼルス、ソルトレイクシティ、ニューヨーク、カンサスシティ、ヒューストンの 5 チームとなる。図 71 は、各チームがフットボールスタジアムを使っていた最終年の観客数に対し、サッカー専用スタジアムになった年から 5 年間の観客数変化をスタジアムタイプごとにまとめたものと、直近の 2013～2017 年の 5 年間の観客数変化を同様にまとめたものを示している。先行研究⁹⁸によれば、新しい施設の効果（Novelty Effect）は長くは継続しないという結論になっているが、MLS の場合は新設後 5 年にとどまらず、現在までその効果を維持していることがわかる。前施設最終年に比べて新設後 5 年は 14～34%、最近 5 年では 23～38% 観客数が伸びていることがわかる。また、タイプ別に比較すると、平均観客数は観戦重視型のほうが 25～37% 観客数が多い。新しい施設の集客効果はどちらも観戦重視型スタジアムの方が 4～14% 観客数を伸ばしていることがわかる。

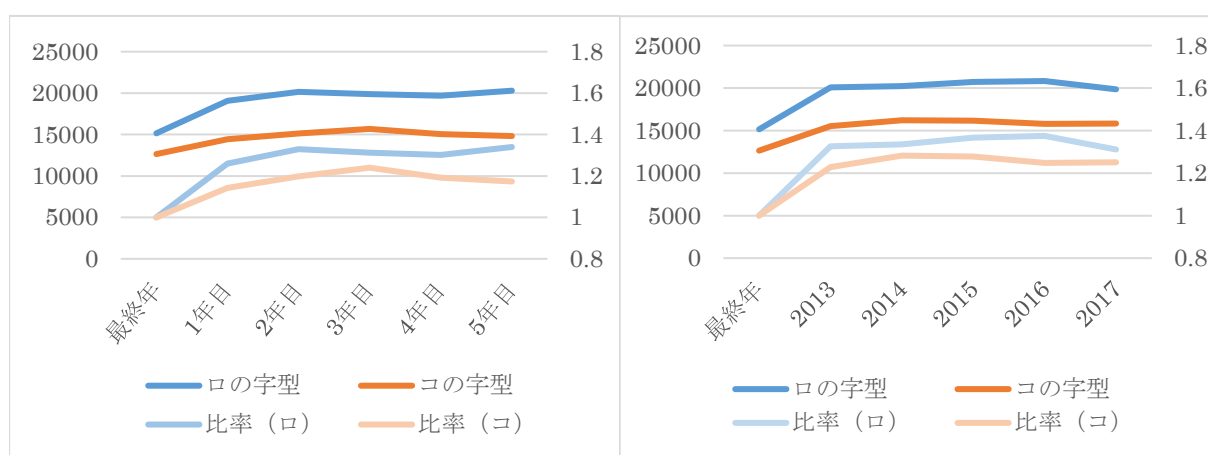


図 71 スタジアムタイプによる観客数の変化

さらにこの時期には MLB スタジアムからの影響が感じられるスタジアムが MLS にも生まれている。Talen Energy Stadium はサポーターの要望により、60%の座席から街の象徴である橋が見えるよう、閉鎖型で進んでいた設計の見直しが行われた。

第3項 MLS の飛躍期の萌芽

2015 年に完成した Avaya Stadium は一面のサイド側の扱いとグラウンドレベルの VIP ゾーンという 2 つの理由で画期的なスタジアムと考えられる。特にサイドの扱いは、ボールパークとして集客に成功した 2000 年代のアメリカの野球場の精神を巧妙にサッカースタジアムに取り入れたと言えるだろう。スタンドの形状だけ見れば、これは Toyota Stadium のような MLS 初期のスタンドをコの字型に配した多目的型のスタジアムに似ているが、それによってできる自由な一面の使い方は本質的に異なる。MLS の初期のスタジアムの形態と MLB の精神を融合したアメリカならではのスタジアムと言えるだろう。

降格のない MLS のシステムを要因の一つとして MLS チームの価値向上と投資意欲向上が見られ、徐々にチームを増やすという戦略も相まって Expansion 競争が激化している。2022 年までの 4 チーム増の方針に対し 12 都市が立候補し、まずは Nashville の参入が決定した。MLS への投資価値が上がり、Expansion 登録料が 150M \$ まで高騰す

るとともに、スタジアムの提案内容が重要な **Expansion** 選定要件となっていったため、様々なアイデアを持ったスタジアムが提案されるようになる。

しかしかに投資によって支えられているとはいえ、チームの収入が最大でも年 60M \$ 程度のビジネスにどうやって 150M \$ の登録料を払うことができるのだろうか？スタジアムも自前で用意せねばならない。スポンサー収入を増やすにしても商品はゲームであるならば、ゲームの質を上げ観客を増やすことが不可欠である。その点からみると満員率の高いスタジアムのキャパシティは今後のテーマであり、**NFL** スタジアムとの兼用（サッカー以上に試合数の少ない **NFL** にとってもメリットとなる）は検討せざるを得ないテーマとなる。

図 72 は 1990 年代から **MLS** に所属しているチームと、2000 年以降に加入したチームの平均観客数の推移を示したものである。リーグ全体の観客数はどんどん増加の一途を辿っているが、このグラフからは新しく参入したチームに引っ張られていることがよくわかるし、その要因の一つとして **NFL** スタジアムを兼用しているチームの集客力が貢献していることは言うまでもない。逆の言い方をすれば、創設当初から存在するチームにとっては、今後のビジネス展開はスタジアムの在り方も含め、考え直さざるを得ない時期に来ているともいえる。**NFL** との兼用については、問題点がいくつか指摘されているが、それを乗り越えたシアトルやアトランタの実績は今後 **MLS** のサッカー専用スタジアムの方向性に大きな影響を与えられ、**Expansion** 候補のデトロイトも **NFL** スタジアム兼用を提唱している点も気になるところである。

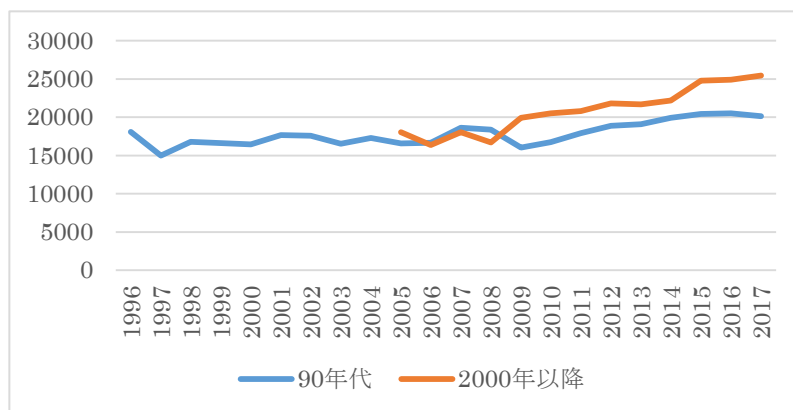


図 72 **MLS** 加入時期による観客数の差異

サッカースタジアムの傾向としては、一席当り工事費の高騰、拡張性、街とのつながりなどがあげられる。増築の観点でみると、トロントの **BMO Field** の増築は大きな意味があると思われる。2014～16 年の工事で増築が完成し、**MLS** のサッカー専用スタジアムとしては最大の収容力を誇るようになったこのスタジアムは、チームの成績も向上し、観客数も順調に伸びている。

スタジアムのテーマとしても街とのつながりとともに拡張性が大きなテーマとなっている。参入希望チームの多さと **Expansion Fee** の高騰などバブルともいえる好景気に沸く **MLS** だが、一年の収支でみると先行きは必ずしも安泰であるとも言いきれない。今後は観客動員数の増加が経営上も大きなテーマとなるだろう。

チーム数を限定し降格のないシステムを採用することで、いつまでもチームへの投資

価値を保つという MLS の戦略は大きな効果を上げている。この行き着く先はどこになるだろうか。例えばアメリカのほかのプロスポーツのように 30 チームと加盟数に制限を設ければ、いつまでも投資価値は維持されるかもしれない。一方で、NFL のファン数に対する膨大な事業規模をベースに、世界のサッカーファン数を考慮するとサッカーには無限の可能性があるという見方もある。さらにイングランドプレミアリーグの数チームはアメリカの投資家によって運営されていることからわかるように、世界全般も含めたビジネス拡大の可能性にもそのヒントがあるかもしれないという意見もある。

2009 年に MLS が発展期を迎えようとしていた際に、アメリカは 2022 年のワールドカップ開催への立候補を考えていたという。不透明な決定経緯でカタールにその機会を奪われたが、最終投票直前までは決定寸前だったといわれている。いまアメリカは 2026 年の開催を、カナダ、メキシコとの共催で検討していて、当選の可能性はかなり高い。ところが今回アメリカは 2018 年ワールドカップロシア大会の出場権を失った。最終予選のホームの戦いはすべて MLS のスタジアムで開催された。サッカー専用スタジアム建設の交換条件であったことがうかがわれる。ホームの戦い 5 試合平均わずか 22,674 人（敵地の平均観客数は 4 万人以上）の観客の前で、アメリカは 2 試合で敗戦を喫した。アウェイで一つも勝てなかったことも大きな敗因だが、少ない本拠地のファンの前で 2 敗を喫したのは致命的だった。今後の国際試合開催会場も大きなポイントとなる。いずれにせよ 2026 年ワールドカップも含めたアメリカの、MLS のグローバル戦略は始まったばかりだと考えられる。この項を飛躍の萌芽としたのはこの意味からである。⁹⁹

第3節 MLS スタジアムの世界への影響

ドイツは 2006 年の W 杯でスタジアムを整備し、その後も中規模のスタジアムを続々完成させ、リーグの観客数を順調に伸ばしている。その次の大会は南アフリカ共和国で 2010 年に開催された。そこで使われた 10 の会場のうちダーバンにあるモーゼス・マヒダ・スタジアムは、図 73 のように屋根をつり下げるために設けた中央のアーチの片側の足元を 2 つに割り、そこから街を見せるという設計になっている。また、その次に 2014 年にブラジルで開催された W 杯では、12 会場のうちサルヴァドールのアレーナ・フォンチ・ノヴァがやはり片側のサイド席を抜いて街を見せている。まだ数は少ないとはいえ、W 杯のスタジアムにもアメリカで見られた街とのつながりに配慮したスタジアムが 2 大会続けて採用されていることは意味があることだと考える。



図 73 モーゼス・マヒダ・スタジアム 100



図 74 アレーナ・フォンチ・ノヴァ 101

さらに 2104 年に完成したシンガポールのナショナルスタジアム（図 75）でも同様の

デザインを見ることができる。ここは日本対ブラジル戦が行われたスタジアムとしても記憶されている。韓国・仁川のスタジアム（図 76）も同様の例として挙げることができる。まだ実施例はさほど多くはないが、アメリカで MLB の影響を受け、サッカー専用スタジアムに採用された開放的なスタジアムは確実に世界へと広がりを見せている。

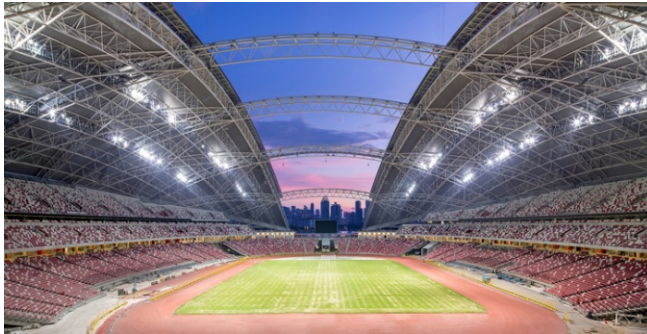


図 75 シンガポール・ナショナル・スタジアム 102



図 76 仁川サッカースタジアム 103

考察の最後に NOU CAMP NOU の目から見た MLS スタジアムについて述べる。キャンプノウは 1957 年に竣工したスタジアムで、完成後 60 年以上になる。老朽化対応や使用性能の向上を目指して現在大改修の設計が行われている。建設当時は新しいスタジアムだったので CAMP NOU (新スタジアム) と呼ばれているが、今回の改修で NOU CAMP NOU と呼ばれるようになっている。

㈱日建設計がその設計を担当していて筆者もかかわっているが、改修に当たってのメインコンセプトは、スタジアムのシンボル性と街並みとの調和であり、ゲームの熱狂の場としてだけでなく街とのかかわりも考慮したスタジアムを提案している。キーワードは「開放」「熱狂」「改修・増築」である。

このプロジェクトは設計コンペによって設計者が選ばれたものであり、外装のない案が当選案となったが、ほかのコンペティターからはすべて建物を外装でくるんだ案が提案されていた。ドイツなど北ヨーロッパの都市では冬に気温が下がるため、可能であれば建物に外装を設け、観客に温かい環境を提供したいと考えるのが自然である。一方、バルセロナはヨーロッパの中では南に位置し比較的温暖な地中海気候に恵まれているため、こうした開放性の高い案も受け入れられたのだと考えられる。ヨーロッパの常識から考えるとこの案は斬新と言えるかもしれない。

ヨーロッパに開放的なスタジアムの例が少ないのはこうした気候条件も影響している可能性がある。さらにサッカー文化が成熟しているヨーロッパの街では、街とのつながりをあえて強調する必要がないほど、街や市民とスタジアムが十分一体化しているのかもしれない。

アメリカ MLS のスタジアムは 22 年の変遷を通して欧州のサッカースタジアムの熱狂と、アメリカのプロスポーツスタジアムの娯楽性や街とのつながりなどの特徴を取り込んで発展し、世界のスタジアムにも影響を与えていると考えられる。

表 8 で MLS のスタジアムの思想と NOU CAMP NOU の思想を対比している。NOU CAMP NOU の設計テーマは、古い建物の改修増築による観客数の増大（改修・増築）、観客の熱狂の創造（熱狂）、コンコースを通じた街とのつながり（開放）の 3 つを主項目に、全部で 8 つに整理できる。主な 3 点は MLS が 22 年かけて追及してきたポイントと

重なるし、8つの項目にも類似点は多い。

MLS のビジネスコンセプトは、ヨーロッパのサッカービジネスとは大きな違いがあり、それが MLS スタジアムの設計思想にも影響を与えている。リーグの安定化は、適切な規模のスタジアムを生み、使用方法の多目的化を目的としたコの字型スタジアムに到達した。特別指定選手制度の採用により経営姿勢を攻めに転換すると、スタジアムも満員の「熱狂」を目指して欧州型のコの字型スタジアムを志向するようになる。さらに Expansion 争いの激化とともにスタジアムも重要な選定の要件となると、様々なアイデアが示されるようになる。その根本には降格のないシステムにより投資家の意欲が維持されていることを指摘できる。投資額は当面のチーム収入とは見合っていないように見えるが、投資家にはグローバル化も含めた MLS の可能性が見えていられる。2026 年の W 杯にアメリカはカナダ、メキシコと共同開催で立候補を表明している。イングランドプレミアリーグには、アメリカ人の投資家がオーナーとなっているチームがいくつも存在する。こうした流れの中で MLS は次の戦略を練っていると考えられるし、それとともにスタジアムも新たな可能性を模索していくものと思われる。「非コの字型・増築型・専用スタジアム」の流れは、今後のスタジアムの方向性の予兆と考えられる。そのなかでキーワードは「開放」と「改修・増築」である。街に対して開け、街と一体になり市民からも愛されるスタジアムは今後の世界のスタジアムのトレンドとなる可能性がある。一方でビジネス拡大を志向する中でのスタジアムの収容力もこれからの大きなテーマとなるだろう。NFL スタジアムに関心が集まっている理由の一つにはそのスタジアムの大きさがあげられる。また既存、これからの新設を問わず、MLS のビジネス拡大にサッカー専用スタジアムをどう調和させていくかも大きな課題となるとと思われる。

MLS のスタジアムは、その時代の流れとともに変遷を重ねていく中で、「開放」「熱狂」「改修・増築」という設計思想に到達した。これらを含めた MLS スタジアムの設計思想は、欧州ではあまり前例のない設計コンセプトを持つ NOU CAMP NOU と多くの共通点が見られる。



図 77 カンプノウ内観

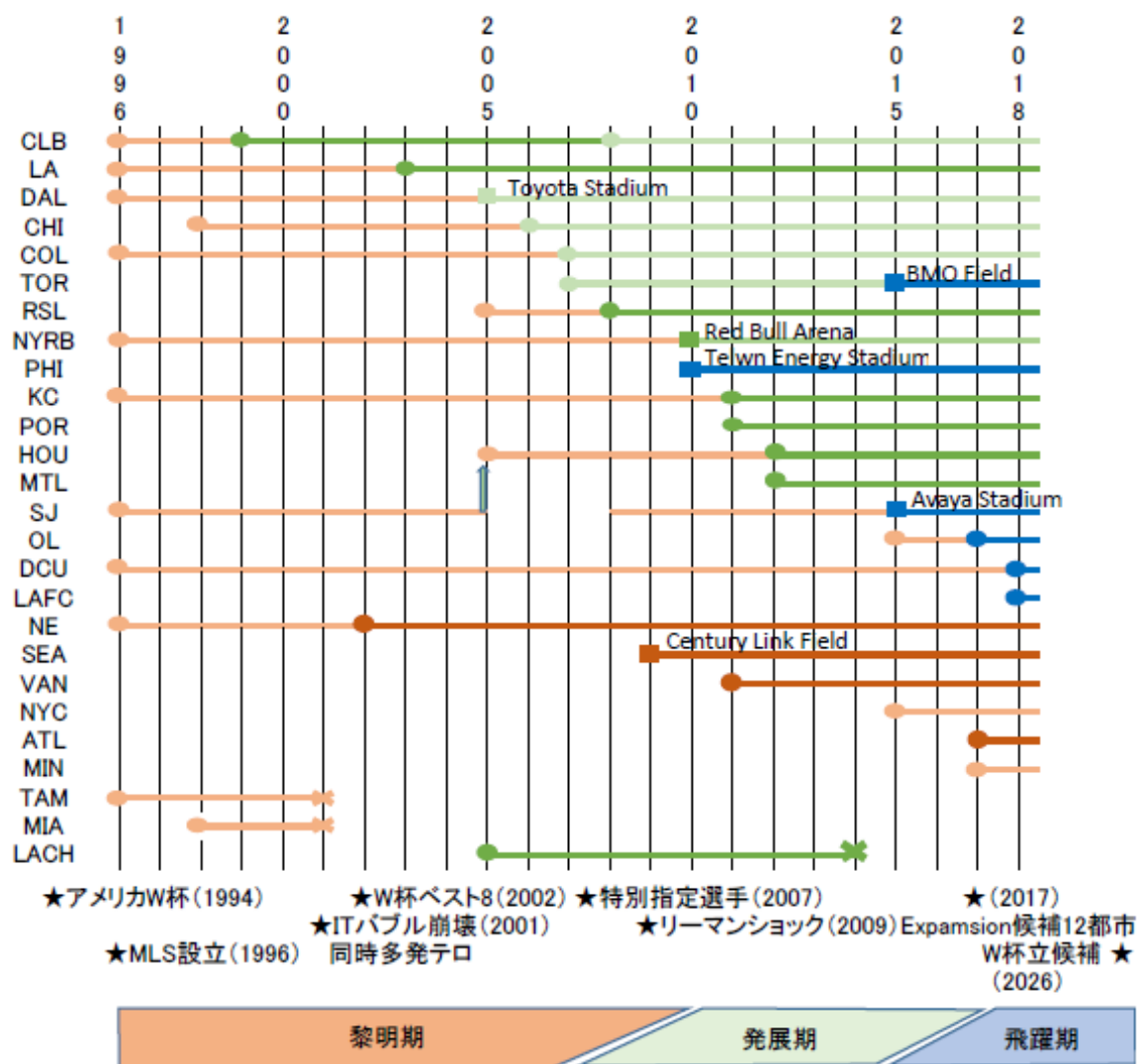


図 78 カンプノウ外観

図 79 では、考察で述べてきたことを一つの図にまとめた。スタジアムがリーグの戦略と関連しながら形を変えて変遷をたどり、そこには MLB などほかのアメリカのプロスポーツの影響があり、それが徐々に世界へと浸透している状況が見て取れる。

表 8 MLS のスタジアム設計思想と NOU CAMP NOU の設計思想の相似

項目	MLS	NOU CAMP NOU
観客数増大への対応 【改修・増築】	増築計画の実施 将来増築可能な計画 NFL スタジアムの利用	99,000 席→105,000 席
観客席のクオリティー向上（臨場感、平等感の醸成）【熱狂】	2010 年以降屋根の数が 増え、覆われた雰囲気 を醸成。スタンドの角 度、距離などが意識さ れるようになる。	どの席にも屋根に覆わ れている。どの席でも 臨場感ある観戦環境が 用意されている。プレー ヤーからは観客席が近い ことによる一体感が感 じられる、
街とのつながりの重視 【開放】	Talen Energy Stadium 以降、街との繋がりを 意識する計画が増えて いて、重要なテーマに なっている。	オープンコンコース。ス タジアムから街が見え る。街からスタジアム が見える。スタジアム のボリューム感の軽減、 ボリュームの分節化
ホスピタリティ（VIP）の向上	VIP 室は初期のスタジ アムから充実している ものが多い。	VIP スペースの増大、 コンセッション、通路 幅、トイレ、縦動線の 充実
パブリックスペースの提供	駐車場も含めた周辺に 十分な空間が多く、試 合前などはバーベキュー を楽しむ姿が見られる	スタジアム周辺のラン ドスケープ空間が試合 のない日は公園になり 、試合がある日は祝祭 広場となる。災害時は 防災広場となる
安全スタジアム	集客数の多い NFL ス タジアムでは、大きな 斜路の採用など特に動 線計画に配慮が見られ る。	エレベーター、エスカ レーター、階段などが わかりやすく、かつ効 果的な位置に配置。安 全動線の見える化。ア クセスの複数化。
環境スタジアム	十分な情報がない	太陽光発電、大屋根に よる雨水集水による再 利用
IT スタジアム	Mercedes-benz Stadium、 Avaya Stadium など新 設のスタジアムでは充 実	大型映像装置、LED に よるリボン広告、スマ ートフォンを用いた試 合情報の取得、自由視 点映像システム



MLB の影響

世界への影響

多目的重視

観戦重視

街とのつながり 拡張性重視

コの字型・多目的

口の字型・伝統的・専用

非口の字型・増築型・専用



図 79 MLS スタジアムとリーグビジネスの発展 (写真は再掲)

第7章 結論

第1節 本研究の結論

MLS のビジネスとスタジアムは互いに影響しあいながら、ほぼ 10 年単位で発展段階を昇っている。

1996 年に設立された MLS は当初 NFL や大学のフットボールスタジアムを間借りして始まったが、2017 年現在の 22 チームのうち、68%の 15 がサッカー専用スタジアムを本拠地としている。ワシントン D.C.が 2018 年から専用スタジアムを使用することが決定しており、2017 年に加入したミネソタ、2018 年に加入予定のロサンゼルス専用スタジアムが完成すると、23 チーム中 78%、18 チームがサッカー専用スタジアムを使用することになる。

当初から MLS は各チームにサッカー専用スタジアムの建設を推奨し、オールスターゲームの開催権を与えるなどのインセンティブを付与した。しかし、80 年代の NASL 失敗の反省から慎重にリーグを立ち上げ、スタジアムも規模的に無理をせずむしろ満員の観客を集めることに注力し、コンサートなどの利用も考慮した設計が主流であった。99 年コロンバス、2003 年ロサンゼルスと徐々にサッカー専用スタジアムを整備されていったが、片側サイド面に常設スタンドを設けずステージ屋根を設置してコンサート誘致を図るなど、2007 年に完成したコロラドのスタジアムまではスタンド構成がコの字型で、多目的使用により収益性に重点を置いたスタジアムがほとんどであった（コの字型・多目的）。

2007 年に特別指定選手制度を採用すると、リーマンショックの影響も最小限にとどまり、観客数、チーム数などが続伸した。それに呼応するように 2008 年以降は Rio Tinto Stadium、2010 年 NY Red Bull Arena に見られるように、屋根付き 4 面スタンドの欧州型サッカー観戦重視のスタジアム建設が多くなり、サッカーでの集客に自信を持つ形でのスタジアム建設が行われ、さらにそれが観客増に貢献して「熱狂」の場を獲得した。（ロの字型・伝統的専用）。

近年では徐々にチーム数を増やすという Expansion 戦略もあって MLS チームの価値が上がり Expansion Fee（登録料）も高騰すると、他のプロスポーツのオーナーも巻き込んだ激しい誘致合戦が展開された。2020～2022 年のチーム数拡大を控え、シアトルに続きアトランタでも同一オーナーによる MLS と NFL の兼用スタジアムが圧倒的な集客力を発揮したこともあって、今後もこのような NFL スタジアムの積極的利用などの展開も予想される。

Avaya Stadium はサッカースタジアムに MLB のアイデアを持ち込んだ画期的なスタジアムだが、その根底には MLB 初期のコの字型スタイルのアイデアが活きている。街との関係による存在感（「開放」）や拡張の可能性（「改修・増築」）など、多彩なスタジアムの提案（非ロの字型・増築専用）が行われていて、この傾向は世界のスタジアムへも影響を与えている。その設計思想（「開放」「熱狂」「改修・増築」）には NOU CAMP NOU の中心的設計思想との共通点が見られ、さらに今後のスタジアム建築の一つの方向性を示唆していると考えられる。

第2節 研究の限界

MLS22 チームのスタジアムのうち、実際に見学したスタジアムはわずか 4 つに過ぎない。またその 4 つのスタジアムも試合観戦によって使用状況などを確認しようと考えたので、Red Bull Arena を除いては、裏方などの詳細な見学はできていないし、関係者のヒアリングもできていない。4 スタジアム以外はいくまでも各スタジアムの HP などの文献や写真などを参考に論じたものであり、実際に現地で確認はできていない。

第8章 謝辞

本研究を行うにあたり、指導教官である平田竹男教授には、厳しくも示唆に富むご指導を賜りました。先生から頂くご指摘によって研究が深化していったのには自分でも驚くばかりでした。先生の的確なご助言なくしては研究もより浅いものに留まったと思います。心より御礼を申し上げます。

同様に貴重な示唆やご助言を頂きました副査の中村好男教授、論文の細部に至るまできめ細かくご指導いただいた副査の児玉有子教授にも重ねて御礼を申し上げます。また、早稲田大学スポーツ科学学術院においてご指導頂きました教授及び講師の先生方にもこの場をお借りして御礼を申し上げます。

そして平田研究室同期の12期生の皆様。ベテランから若手まで非常にユニークなメンバーに恵まれ、励ましあいながらも楽しい大学院生活を送ることができました。いろいろな楽しい思い出が残りました。

また修士2年制の河野遼兵氏、佐々木大氏、吉鹿奈三子氏にも多大なご協力を頂きました。本当に感謝しています。

Blue United Corporationの中村武彦氏には、MLSに関する豊富なご経験から適切なアドバイスや貴重な資料を頂きました。研究の進捗には欠かせないものだったと思います。改めて御礼を申し上げます。

最後に㈱日建設計の皆様には私が大学院で学ぶことをご理解いただき、特に村尾忠彦氏にはMLSの見学にも同行いただき、常に適切なご助言を賜りました。皆様のご支援なくこの研究は完了しなかったと思います。有難うございました。

本研究にご協力いただいた全ての皆様に感謝の意をもって謝辞とさせていただきます。
ありがとうございました。

- 1 ワールドカップ観客数
<http://www.fifa.com/fifa-tournaments/statistics-and-records/worldcup/index.html>
- 2 アメリカワールドカップ会場
https://ja.wikipedia.org/wiki/1994_FIFA_ワールドカップ
- 3 The UNITED STATE of SOCCER Phil West The Overlook Press, NY (2016)
- 4 世界スタジアム物語 後藤健生著 ミネルヴァ書房 (2017)
- 5 各国のサッカーリーグ平均観客数の推移
<http://ultra.zone/football-league-attendance.ja>
- 6 サッカースタジアムの変遷に関する一考察 ―J. ベイルの理論を中心に―
金森純 日本体育大学紀要 37 巻 2 号 (2008)
- 7 イングランドにおけるプロ・サッカークラブのスタジアム変容に関する一考察
飯田義明 専修大学体育研究紀要 29 巻 (2005)
- 8 プロ・スポーツにおけるスタジアム戦略
～英国プロ・サッカークラブのスタジアム・マネジメント～
西崎信夫 日本経営診断学会論集 8 巻 (2008)
- 9 ポピュラー・スポーツとスポーツ観戦環境
～近年のスタジアム/アリーナの建設政策を中心に～
橋本純 信州大学環境科学年報 36 号 (2014)
- 10 米国メジャーサッカー (MLS) のチケット販売戦略とシングル・エンティティ構造の考察
大山高 帝京経済学研究 第 48 巻 第 2 号 (2014)
- 11 Major League Soccer(MLS)を頂点とする北米のサッカーリーグ構造とスポーツビジネス
宮崎純一 青山経営論集 第 47 巻第 1 号 (2012)
- 12 2017 年 MLS スタジアム
<https://www.mlssoccer.com/post/2017/03/05/all-22-mls-stadium-2017-season>
- 13 Toyota Stadium
[https://en.wikipedia.org/wiki/Toyota_Stadium_\(Texas\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Toyota_Stadium_(Texas)) <https://www.fcdallas.com/stadium>
- 14 <https://www.fcdallas.com/stadium/seating>
- 15 https://www.google.co.jp/search?q=toyota+stadium+dallas&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjw3ciGhcjYAhWBW5QKHY8yAKEQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgsrc=AZUR1Jf4TxxJoM
- 16 Century Link Field
https://en.wikipedia.org/wiki/CenturyLink_Field
- 17 https://www.google.co.jp/search?q=century+link+field&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwiO59qm05DYAhWCkpQKHbMvCd8Q_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgsrc=yDG3JBR1RIIu4M
- 18 Red Bull Arena
<https://www.newyorkredbulls.com/redbullarena>
[https://en.wikipedia.org/wiki/Red_Bull_Arena_\(New_Jersey\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Red_Bull_Arena_(New_Jersey))
- 19 https://www.google.co.jp/search?q=red+bull+arena&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjF0ZWXpbjYAhXIpJQKHYNcCLgQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgsrc=_i9x-3F4LDvTIM
- 20 <https://www.newyorkredbulls.com/redbullarena/seating-map>
- 21 Avaya Stadium
<https://www.sjearthquakes.com/avayastadium>
https://en.wikipedia.org/wiki/Avaya_Stadium
- 22 https://www.google.co.jp/search?q=avaya+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwi53fiMqLjYAhWJVbwKHeQ2AaEQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgsrc=APG2nMR8a3UYZM
- 23 <https://www.sjearthquakes.com/avayastadium/stadium-map>
- 24 Providence Park
https://en.wikipedia.org/wiki/Providence_Park <http://www.providenceparkpdx.com/>
<http://www.providenceparkpdx.com/about/events/field6>

-
- 25 https://www.google.co.jp/search?q=providence+park&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjUusTD-8fYAhUMebwKHWtyAlUQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=TKCBgy8DgJJjsM:
- 26 <https://www.timbers.com/tickets/seating-map-pricing>
- 27 Mapfre Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Mapfre_Stadium
<http://mapfrestadium.com/>
<https://www.si.com/planet-futbol/2015/12/02/mapfre-stadium-columbus-crew-mls-cup>
- 28 https://www.google.co.jp/search?q=mapfre+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjVyvOI_MfYAhUMErwKHQBhBQEQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=7dG_65o-TjOHNM:
- 29 <http://mapfrestadium.com/stadium-info>
- 30 StubHub Center
https://en.wikipedia.org/wiki/StubHub_Center
<http://www.stubhubcenter.com/> <http://www.internationalchampionscup.com/venues/35fff4bf9dbde5a4b655>
- 31 https://www.google.co.jp/search?q=Stubhub+Center&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwiHhJf-trjYAhVGupQKHwZJC5AQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=xiGgR9DZYRnWpM:
- 32 <http://www.stubhubcenter.com/guest-services/seating-maps/soccer>
- 33 Toyota Park
https://en.wikipedia.org/wiki/Toyota_Park
<https://www.toyotapark.com/>
- 34 https://www.google.co.jp/search?q=Toyota+park&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjn54uxubjYAhWMnJQKHAM1ByUQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=5E_tf4Z7NAy6RM:
- 35 <https://www.chicago-fire.com/matchday/seating-map>
- 36 BMO Field
<http://bmofield.com/>
https://en.wikipedia.org/wiki/BMO_Field
- 37 https://www.google.co.jp/search?q=bmo+field&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEWj085-2u7jYAhUGzbwKHRtnApcQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=SAU141ErBjEr_M:
- 38 <http://bmofield.com/events-tickets/seating-chart/>
- 39 Dick's sporting gppds park
https://en.wikipedia.org/wiki/Dick%27s_Sporting_Goods_Park
<http://www.dickssportinggoodspark.com/>
- 40 https://www.google.co.jp/search?q=dick%60s+sporting+goods+park&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjs65nHvLjYAhXBW5QKHefaCssQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=QOZh1DUk3o7LmM:
- 41 <http://www.dickssportinggoodspark.com/fan-guide/stadium-information/maps/>
- 42 Stade Saputo
https://en.wikipedia.org/wiki/Saputo_Stadium
<https://www.impactmontreal.com/en/stadium/stade-saputo>
- 43 https://www.google.co.jp/search?q=stade+saputo&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwiot4HyvLjYAhVJLpQKHVf_ADMQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=xPfYNzwRzE7tnM:
- 44 <https://www.impactmontreal.com/en/stadiums/seating-maps>
- 45 Rio Tinto Stadium
<http://riotintostadium.com/>
https://en.wikipedia.org/wiki/Rio_Tinto_Stadium
- 46 https://www.google.co.jp/search?q=rio+tinto+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEWjczI3uvbjYAhXDE7wKHRawDqoQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=ZTdlTT5VAek_ZM:
- 47 <http://riotintostadium.com/seating-charts/>
- 48 Talen Energy Stadium
<https://www.philadelphiaunion.com/stadium>
https://en.wikipedia.org/wiki/Talen_Energy_Stadium

-
- 49 https://www.google.co.jp/search?q=talen+energy+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjnh8bP_MfYAhVCsJQKHbbJD2oQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=7sd3THeoMQDYoM:
 - 50 <https://www.philadelphiaunion.com/stadium/seatingmap>
 - 51 Children`s Mercy Park
<https://www.sportingkc.com/childrens-mercy-park>
https://en.wikipedia.org/wiki/Children%27s_Mercy_Par
 - 52 https://www.google.co.jp/search?q=children%60s+mercy+park&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjhidLZvrjYAhWJoJQKHR48BCQQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=F_5X7WPWxRXn0M:
 - 53 <https://www.sportingkc.com/childrens-mercy-park/seating-chart>
 - 54 BBVA Compass Stadium
<http://www.bbvacompassstadium.com/>
https://en.wikipedia.org/wiki/BBVA_Compass_Stadium
 - 55 https://www.google.co.jp/search?q=bbva+compass+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjD8rSZv7jYAhUCjJQKHTEDDMkQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=Yqlz64HxVMLFcM:
 - 56 <http://www.bbvacompassstadium.com/events/seating-map>
 - 57 Orlando City Stadium
<https://www.orlandocitysc.com/stadium>
https://en.wikipedia.org/wiki/Orlando_City_Stadium
 - 58 https://www.google.co.jp/search?q=orlando+city+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwiLy_PFv7jYAhXKoJQKHbffcogQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=N_E0k2iXTXAnhM:
 - 59 <https://www.orlandocitysc.com/stadium/maps>
 - 60 Mercedes-benz Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Mercedes-Benz_Stadium
 - 61 https://www.google.co.jp/search?q=mercedes+benz+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjsluik1ZDYAhWIUbwKHbsIBqcQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=9KKavG5A81_yAM:
 - 62 BC Place
https://en.wikipedia.org/wiki/BC_Place#cite_note-4
 - 63 https://www.google.co.jp/search?q=BC+Place&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwIQ3drk1ZDYAhUHxbwKHfs7Aa0Q_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=dWMDGvnAqzcljM:
 - 64 Gillette Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Gillette_Stadium
 - 65 [https://en.wikipedia.org/wiki/Gillette_Stadium#/media/File:Gillette_Stadium_\(Top_View\).jpg](https://en.wikipedia.org/wiki/Gillette_Stadium#/media/File:Gillette_Stadium_(Top_View).jpg)
 - 66 RFK Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Robert_F._Kennedy_Memorial_Stadium
 - 67 Audi Field
https://en.wikipedia.org/wiki/Audi_Field
<https://www.dcunited.com/audi-field>
 - 68 https://en.wikipedia.org/wiki/Audi_Field#/media/File:D.C._United_Stadium_Rendering.jpg
 - 69 TFC Bank Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/TCF_Bank_Stadium
 - 70 https://en.wikipedia.org/wiki/TCF_Bank_Stadium#/media/File:TCF_Bank_Stadium_-_Minnesota_Golden_Gophers.jpg
 - 71 Alleanz Field
https://www.google.co.jp/search?q=allianz+field&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjEkvGV1JDYAhXKoZQKHha_oCC8Q_AUICigB&biw=1600&bih=794#imgrc=tKyU7qDTsuQzdM:
 - 72 Yankee Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Yankee_Stadium
 - 73 https://search.yahoo.co.jp/image/search?p=yankee+stadium&search.x=1&tid=top_ga1_sa&ei=UTF-8&aq=-1&oq=yankee+stadium&ai=NYvJSRslT7WC5fGTc_sTA&ts=4493&fr=top_ga1_sa#mode%3Ddetail%26index%3D0%26st%3D0

- 74 https://search.yahoo.co.jp/image/search?p=yankee+stadium&search.x=1&tid=top_ga1_sa&ei=UTF-8&aq=1&oq=yankee+stadium&ai=NYvJSRslT7WC5fGTc_sTA&ts=4493&fr=top_ga1_sa#mode%3Ddetail%26index%3D69%26st%3D2487
- 75 Banc of California Stadium
https://en.wikipedia.org/wiki/Banc_of_California_Stadium
<https://www.lafc.com/stadium>
- 76 https://www.google.co.jp/search?q=banc+of+California+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjQyvuY-rjYAhVLIwKHYBqBKUQ_AUICigB&biw=1600&bih=794#imgrc=_
- 77 Nashville
<https://www.mlssoccer.com/post/2017/12/20/nashville-awarded-mls-expansion-club>
<https://www.mlssoccer.com/post/2017/11/08/nashville-metro-council-passes-275-million-plan-potential-mls-stadium>
- 78 https://www.washingtonpost.com/news/soccer-insider/wp/2017/12/19/mls-expansion-is-coming-to-nashville-which-cities-are-next-on-the-list/?utm_term=.5e49b530249c
- 79 Cincinnati
<https://www.mlssoccer.com/post/2017/11/29/fc-cincinnati-receive-local-government-backing-mls-stadium-project>
- 80 <https://www.mlssoccer.com/post/2017/11/29/fc-cincinnati-receive-local-government-backing-mls-stadium-project>
- 81 Detroit
<https://www.freep.com/story/sports/nba/pistons/2017/11/02/detroit-mls-bid-ford-field/823112001/>
https://en.wikipedia.org/wiki/Ford_Field#/media/File:Ford-Field-September-10-2006.jpg
- 82 https://www.google.co.jp/search?q=ford+field&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKewix-Y2-_7jYAhUKjpQKHThQCMiQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=eUUajEazXs16tM
- 83 Sacramento
<https://cbssacramento.files.wordpress.com/2016/09/sac-mls-stadium.jpg?w=1280>
- 84 <http://sacramento.cbslocal.com/2016/09/08/designers-refine-proposed-sacramento-mls-stadium-plans/>
- 85 アメリカの GDP 推移
http://ecodb.net/country/US/imf_gdp.html
- 86 アメリカの経済成長率推移
http://ecodb.net/country/US/imf_growth.html
- 87 NY ダウ平均株価推移
<http://ecodb.net/stock/dow.html>
- 88 AECOM Technical Service, Inc. (2014): Downtown MLS Stadium Feasibility Study- Las Vegas, Nevada
- 89 日本政策投資銀行ワシントン駐在事務所、ニューヨーク投資事務所（2005）：
米国におけるスタジアム・ファイナンス
- 90 BBVA Compass Stadium IMPACT REPORT 2013
- 91 スポーツビジネスの最強の教科書 第2版 平田竹男著 東洋経済新報社（2017）
- 92 Unpacking the Major League Soccer Business Model
https://medium.com/@isaacccccccc_94128/unpacking-the-major-league-soccer-business-model-827f4b784bcd
- 93 メジャー・リーグ・サッカー解体新書（第1回）中村武彦（サッカー批評 78：双葉社 2015）
- 94 Unpacking the Major League Soccer Business Model（90に同じ）
- 95 Major League Soccer teams ranked by revenue in 2016 (in million U.S. dollars)
<https://www.statista.com/statistics/477857/team-revenue-of-mls-soccer-teams/>
- 96 メジャーリーグスタジアム巡礼 AKI 猪瀬著 X-Knowledge（2016）
- 97 Nashville https://www.google.co.jp/search?q=nashville+MLS+stadium&tbm=isch&source=iu&ictx=1&fir=rxhy3Kl8LV9Y5M%253A%252CHfBSjBmJmfPOBM%252C_&usg=__z4RKs80ZSxcExMqC0eSbGCYeSSM%3D&sa=X&ved=0ahUKEwibv6rvuMfYAhUT6bwKHacICSsQ9QEINjAC#imgrc=rxhy3Kl8LV9Y5M

-
- ⁹⁸ Adam Love et al. (2013) :Soccer-Specific Stadiums and Attendance in Major League Soccer:Investigating the Novelty Effect. Journal of Applied Sport Management Vol 5,No.2 32-46
- ⁹⁹ それでも世界はサッカーとともに回り続ける 片野道郎著 河出書房新社 (2017)
- ¹⁰⁰ モーゼス・マヒダ・スタジアム
https://www.google.co.jp/search?q=%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%82%BC%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%83%92%E3%83%80%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%83%A0&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwi9kbTTj8fYAhXMP5QKH2HAWwQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=IE9ZDVrvLhoMtM:
- ¹⁰¹ アレーナ・フォンテ・ノヴァ
https://www.google.co.jp/search?q=%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%83%90%E3%83%89%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%83%A0&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjKitrm-sfYAhUDwLwKHSxNDvcQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=PqRg5l2oAzkB0M:
- ¹⁰² シンガポール・ナショナル・スタジアム
https://www.google.co.jp/search?q=singapore+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjyvuul4sfYAhWEvbwKHZ3LAXYQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=eyUyYtZTSGLWdM:
- ¹⁰³ 仁川サッカースタジアム
https://www.google.co.jp/search?q=incheon+stadium&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwjPvq364sfYAhVDG5QKHd2VDDz_oQ_AUICygC&biw=1600&bih=794#imgrc=PYBW8xIqs6HL-M: